

提出日：2012/03/02(Fri)

故郷

～それぞれの^{ふるさと}土浦を求めて～

2011 年度
都市計画マスタープラン策定実習 最終レポート

4 班

班長：野澤駿平 副班長：堀之内志帆
高垣駿平 伊能沙知
TA：高森賢司

目次

第1章 土浦市の概要	7
第2章 土浦市の現状	8
2-1.人口	8
2-2.観光	9
2-3.交通	11
2-4.施設	12
2-5. 防災	13
2-6. 市民の声	16
2-7. 霞ヶ浦	17
2-8. 開発	17
2-9. 財政	18
第3章 ヒアリング調査実施	19
3-1.公民館	19
3-2.さん・あぴお	34
3-3.その他	36
第4章 地区別構想	48
4-1.中心地区	48
4-1-1.現状	48
4-1-2.課題	48
4-1-3.まちづくりの方針	48
4-2.荒川沖地区	49
4-2-1. 現状	49
4-2-2. 課題	49
4-2-3. まちづくりの方針	49

4-3.神立・おおつの地区.....	50
4-3-1.現状.....	50
4-3-2.課題.....	50
4-3-3.まちづくりの方針.....	50
4-4.新治地区	51
4-4-1.現状.....	51
4-4-2.課題.....	51
4-4-3.まちづくりの方針.....	51
第5章 重点計画	52
5-1.はじめに	52
5-2.概要.....	52
5-3. 内容	53
5-3-1.コ強	53
5-3-2.交強	57
5-3-3.鼓興	64
5-3-4.湖郷	68
5-3-5.顧協	75
5-4.まとめ	81
第6章 補足	84
6-1.交強補足	84
6-1-1.市役所移転	84
6-1-2.神立駅前整備事業.....	85
6-1-3.無料バス先行事例.....	86
6-1-4.無料バス想定プランの事業費	87
6-2.湖郷補足	87

6-2-1.周辺整備事業.....	87
第7章 ヒアリング協力者・参考文献	88

図表一覧

図 1 土浦市上空写真	7
図 2 地区別人口密度分布図	8
図 3 人口予測図	8
図 4 土浦市月別観光客数.....	9
図 5 茨城県内における土浦市の観光客数	10
図 6 茨城県内の日帰り・宿泊観光客数.....	10
図 7 主要交通	11
図 8 教育施設の分布	11
図 9 病院の施設数.....	12
図 10 土浦市域分類図	12
図 11 急傾斜地崩壊危険箇所	13
図 12 桜川浸水想定区域 出典：利根川水系桜川 浸水想定区域図	14
表 1 住家被害	13
表 2 非住家被害	13
表 3 人的被害	14
図 13 土浦市の資源 出典：市民満足度調査	16
図 14 まちづくりへのアイデア 出典：市民満足度調査.....	16
図 15 土浦駅西口開発	17
図 16 市役所移転先候補	18
図 17 公民館に飾られたならせ餅.....	27
図 18 市役所	36
図 19 平成 23 年度の寄付金の活用先（いただいた資料より）	37
図 20 ラクスマリーナ	38
図 21 ふれあいセンターながみね.....	40
図 22 環境科学センター	41
図 23 霞ヶ浦環境科学センターから頂いた資料.....	42
図 24 モール 505	43
図 25 みんなで創ろう交流マップ.....	42
図 26 stack席想定場所と土地所有者	43
図 27 ヒアリングの様子	44

図 28	まちなか桜めぐりバス	45
図 29	現在運行しているキララちゃんバス	46
図 30	レンコン体験 1.....	46
図 31	レンコン体験 2.....	47
図 32	土浦駅	47
図 33	亀城公園.....	47
図 34	ラクスマリーナ	48
図 35	乙戸沼公園	48
図 36	荒川沖駅付近.....	49
図 37	神立駅前	49
図 38	レンコン畑	50
図 39	小町の里.....	50
図 40	清滝寺	50
図 41	東城寺	51
図 42	「こきょう」体系図.....	52
図 43	防犯・井戸マップの学習	53
図 44	けんちん汁作り	54
図 45	皆でけんちん汁を食べる様子	53
図 46	大人も子供も会に参加.....	54
図 47	情報を公民館にて集約.....	54
図 48	情報を公民館から住民へ発信	55
表 4	コ強まとめ	56
図 49	市役所場所についての意見.....	56
図 50	市役所移転場所	57
図 51	駅側から見た新市役所イメージ	57
図 52	市役所移転イメージ.....	58
図 53	施策前	57
図 54	施策後	58
図 55	無料バスの仕組みイメージ図.....	59
図 56	無料バス事業費用	60
表 5	想定運行時刻表	60
図 57	無料バスルート	60
図 58	モール 505 付近イメージパース	61
図 59	市役所への訪問手段.....	61
図 60	無料バスによる市役所来場者数見込み	62
図 61	市役所とモール 505 を結ぶペデストリアンデッキのイメージ	62

表 6	交強まとめ	63
表 7	出典：博報堂生活総合研究所「食と農業に関する意識調査」	64
図 62	れんこん掘り体験	65
図 63	農業体験相関図	65
表 8	農業体験採算性の検証	66
図 64	ウォークガイド例（新治地区）	67
表 9	呼興まとめ	67
図 65	霞ヶ浦を将来どうすればよいか	68
図 66	行政施策としてどちらを支援するか	68
図 67	霞ヶ浦の主な汚水原因	69
図 68	霞ヶ浦への流入 56 河川の図	69
表 10	整備費用概要	70
図 69	整備計画場所	70
図 70	霞ヶ浦周辺整備イメージパース	70
図 71	花火大会での屋形船運行	71
図 72	行方で行われた霞ヶ浦湖上花火大会	71
図 73	栈敷席の収入	71
図 74	累積経常収支	72
図 75	霞ヶ浦湖上花火大会イメージパース	73
表 11	湖郷まとめ	73
表 12	土浦市のふるさと納税の納税者数及び納税額の変移	75
図 76	ふるさと納税の震災対応例	76
表 13	茨城県の納税額	77
図 77	ふるさと納税に関する広告例	78
図 78	分かりにくい寄付のプランの変更例	79
表 14	土浦にある企業の方々からの大口寄付の確保のための P R	79
表 15	顧協まとめ	80
表 16	故郷のまとめ	81
図 78	各地域とこきょう	82
図 79	各提案どうしの関わり	82
図 80	周辺地域との関わり	83
図 81	人口現状の割合	83
図 82	市役所訪問者の年齢層	83
図 83	市役所訪問時の交通手段	84
図 84	高架道事業鳥瞰図	85
図 85	神立駅前の整備計画	85

図 86	施策前	85
図 87	施策後	86
表 17	無料バス想定プランの事業費	87
表 18	事業費内訳	87
表 19	整備事業費用.....	87

第1章 土浦市の概要

茨城県南部に位置する人口約14万人の都市。歴史は古く室町時代に土浦城が築かれ城下町として栄え、戦争中には海軍航空隊の基地が設置され海軍の町としても栄えた。戦後は駅前を中心に多くの百貨店が存在し、広い商圈を有していた。しかし、筑波研究学園都市の開発により徐々に土浦の地位が後退してきてしまった。

一方、常磐線、常磐道などの交通利便性、桜川、霞ヶ浦の水資源、城下町としての歴史的価値など土浦が持っているポテンシャルは高く、こういった土浦の魅力的な面を今後うまく活性化させていくことが求められている。

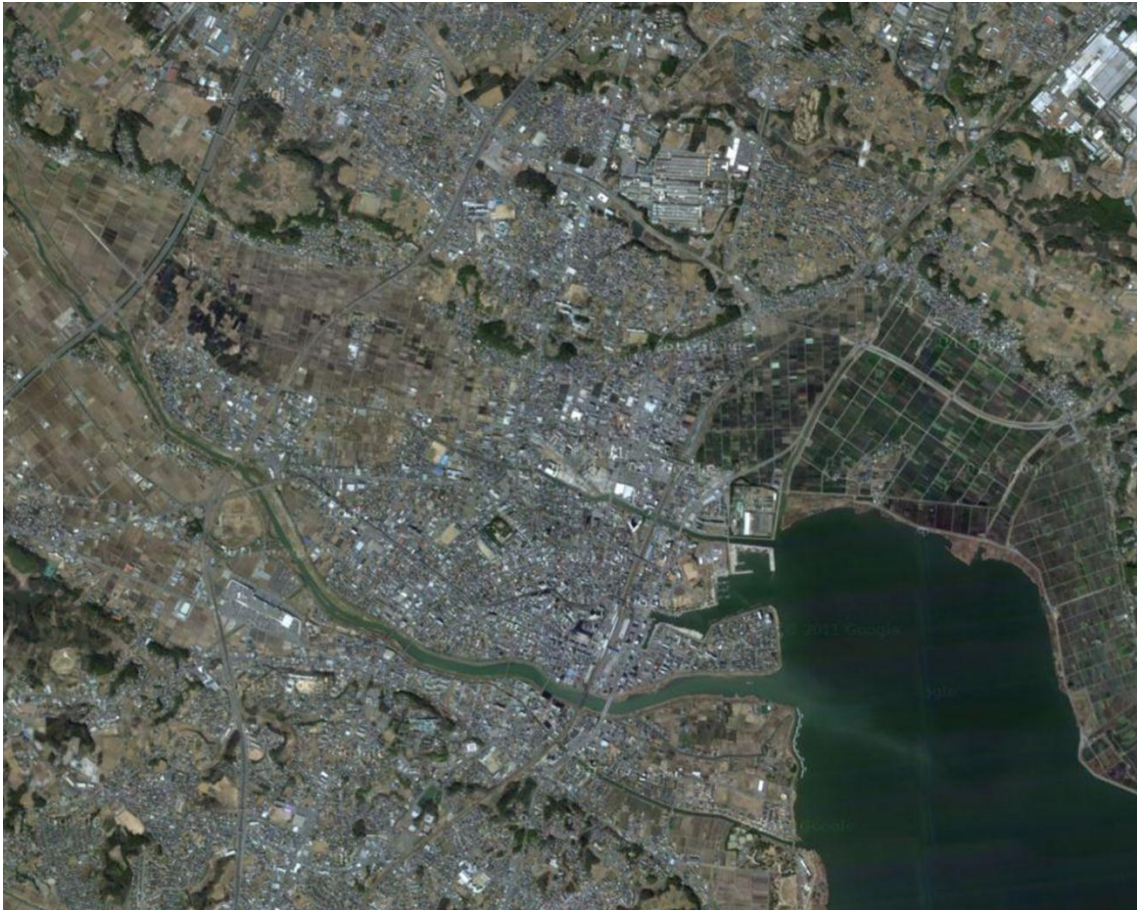


図 1 土浦市上空写真

第2章 土浦市の現状

2-1.人口

土浦市の人口は 143,516 人(平成 23 年)である。地区別に人口密度(人/km²)を見ると、常磐線沿線に人口が多く平成 18 年に合併して加わった新治地区は人口が少ないことが分かる。

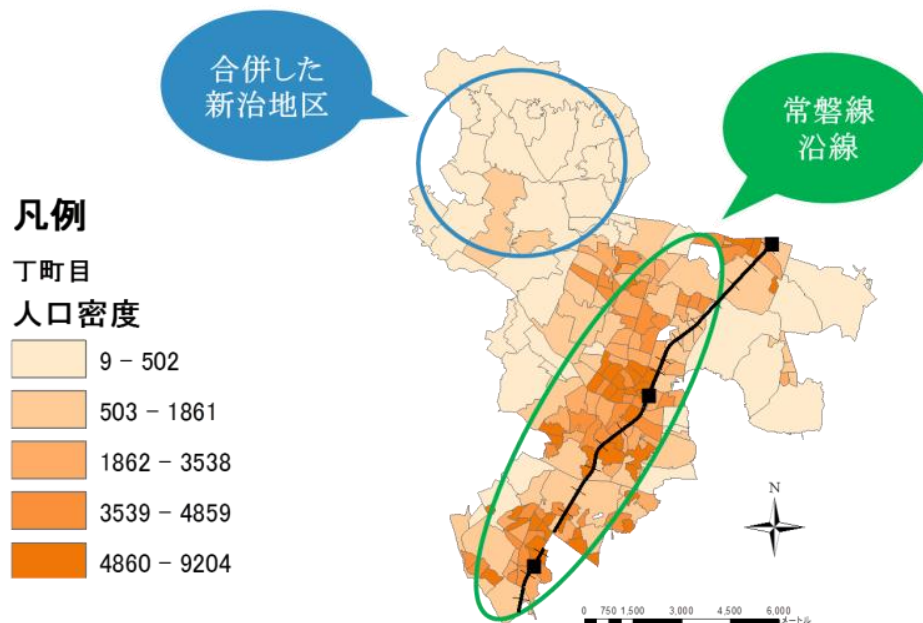


図 2 地区別人口密度分布図

また、コーホート要因法による人口予測を行った結果、50 年後には現在の人口の 33% (47000 人)もの減少が予測された。これは、非常に深刻な事態である。

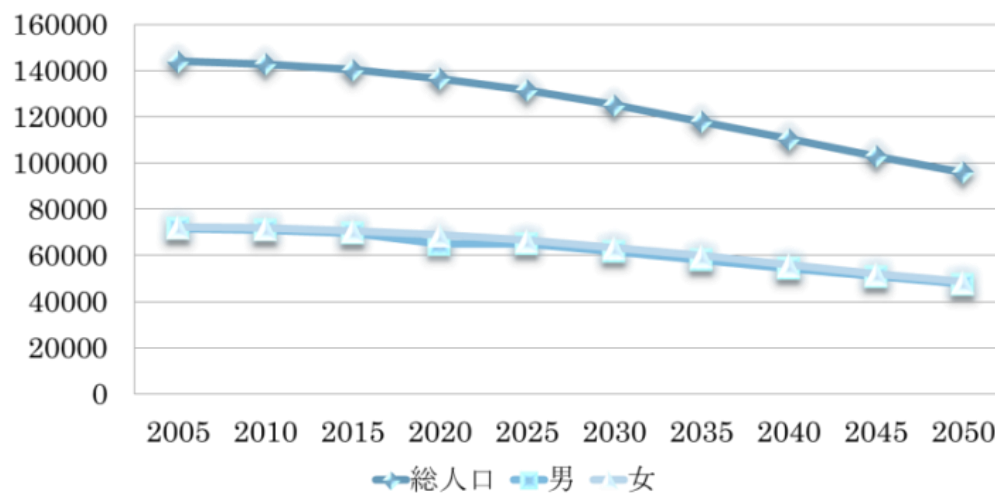


図 3 人口予測図

2-2.観光

【現状】

土浦市は様々な観光資源に恵まれている。日本第2位の面積を誇る霞ヶ浦の豊かな自然、三大花火大会と謳われる土浦全国花火競技大会や桜まつりなどの伝統あるイベント、歴史的建造物の残る歴史の小道。どれも魅力に溢れている。また、平成18年に新治村と合併したことにより、筑波山麓の自然やからかさ万灯といった行祭事も新たに観光資源として加わり、積極的な観光事業への取り組みが期待されている。

しかし、土浦市の観光客数は平成15年に167万人でピークだったのだが、平成22年には138万人まで減少しており、観光ニーズの高度化、多様化に追いついていないことが伺える。

【課題】

土浦市における観光の課題として、イベント依存型観光であることが挙げられる。それは月ごとの観光客数を見ると明らかとなる。

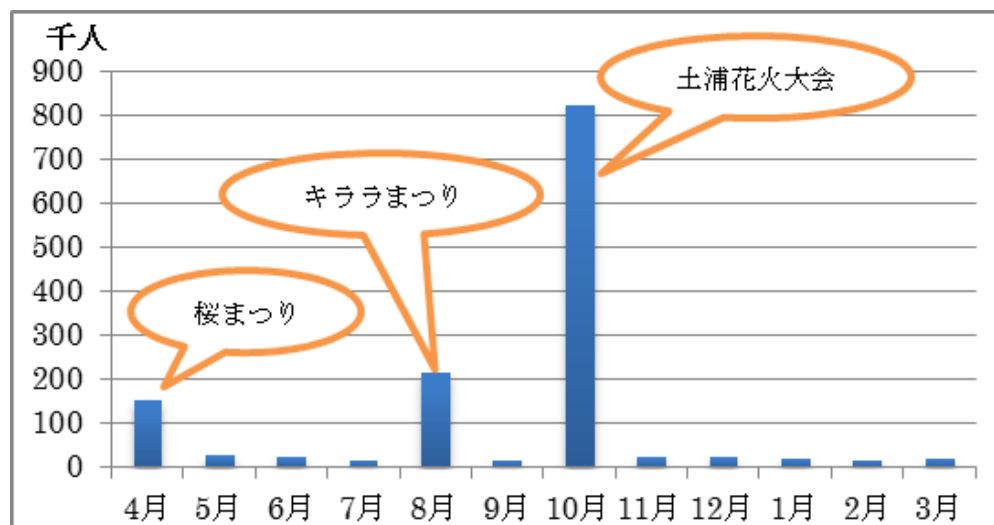


図4 土浦市月別観光客数

特に土浦花火大会では、毎年約80万人の観光客が訪れ、土浦市にとっても重要な観光資源となっているが、イベント依存型観光のままでは、新しい観光客の誘致は困難であり、脱却が不可欠である。

【茨城県内における土浦市】

茨城県の観光客数は増加しているのに対し、土浦市の観光客数は減少している。

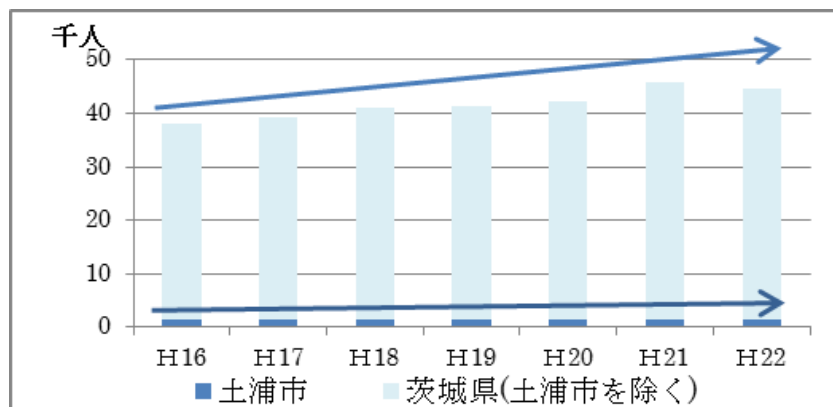


図5 茨城県内における土浦市の観光客数

しかし茨城県全体の観光客の数を地区毎に見てみると、海岸沿いに集中していることが分かる。つまり、水辺を生かした新しい観光地の創設は観光客数の増加に寄与するのではないだろうか。

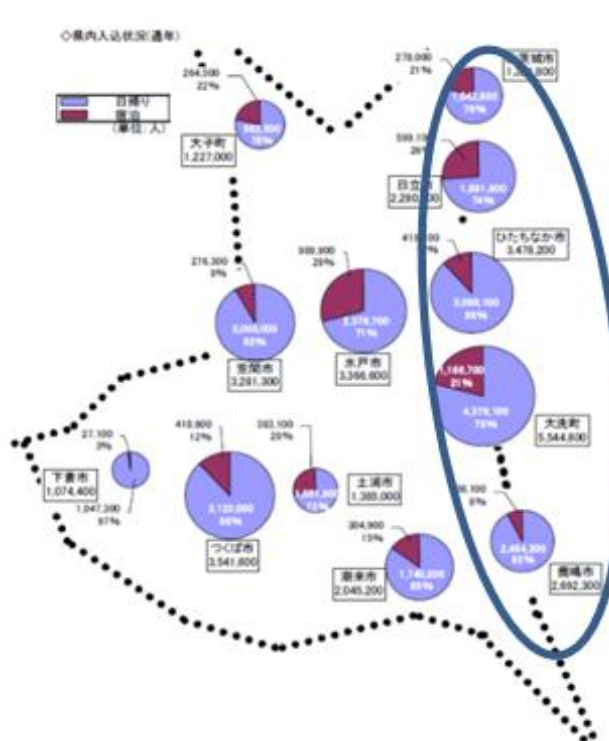


図6 茨城県内の日帰り・宿泊観光客数

2-3.交通

図は土浦市の主要交通を表している。交通網は土浦市の人口の多い場所に縦横無尽に整備されており、交通としての役割を十分に担っているといえる。しかし、国道の慢性的な交通渋滞は問題であり、解決策が求められている。

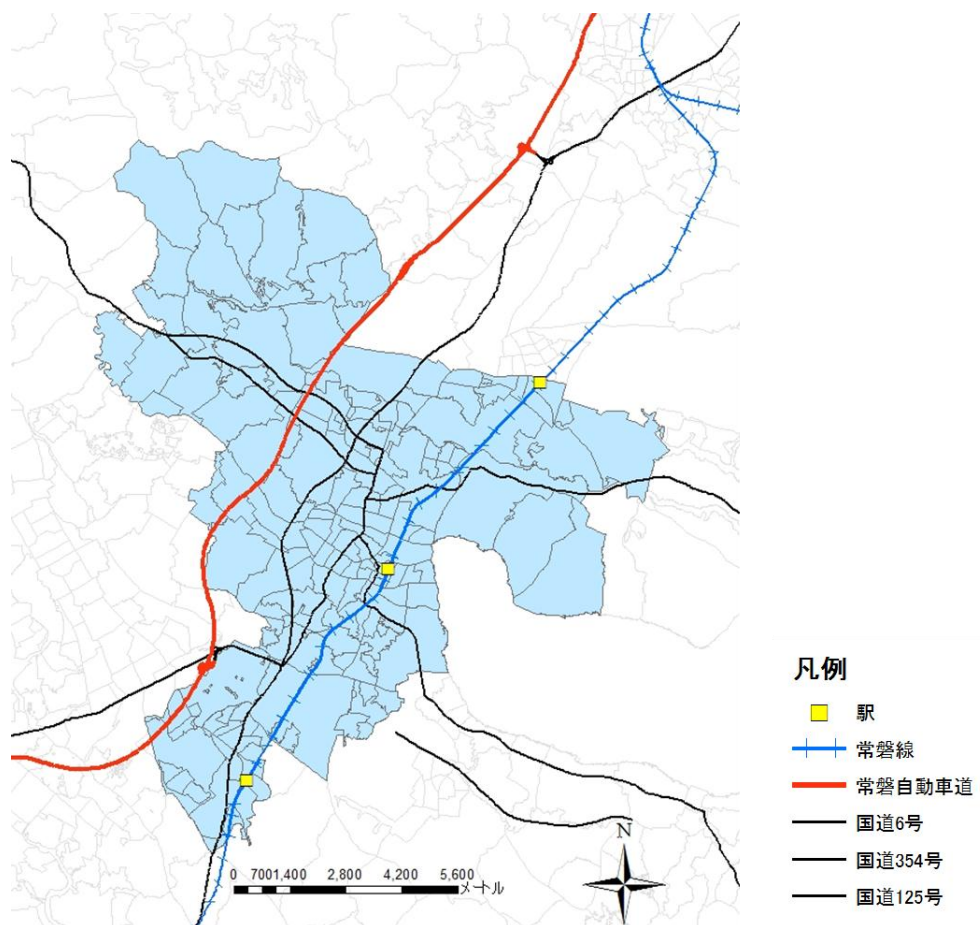


図7 主要交通

【常磐線の車両数】

車両の数は一概とはいえないが、ほとんどの車両で土浦を界に上りの際車両数は増え、下りの際は減少する。つまり土浦に住むことで、座って通勤可能なのである。交通の要としての機能を持ち、交通の便がないといわれているが、関東圏の都市として、通勤には非常に便利な路線ではないか。

2-4.施設

【教育施設と医療施設の立地】

教育環境が整っており、隣接するつくば市研究学園にも近く、子育てに適している。医者
者の人口(H18)は土浦市 369 人、茨城県平均 105 人と大幅に上回っている。これはかつて海
軍の町であった名残であり、現代においても快適な居住環境のための一角を担う存在であ
る。また、医療施設の立地は中心市街地で集積傾向があり、郊外では過疎傾向であること
が分かる。

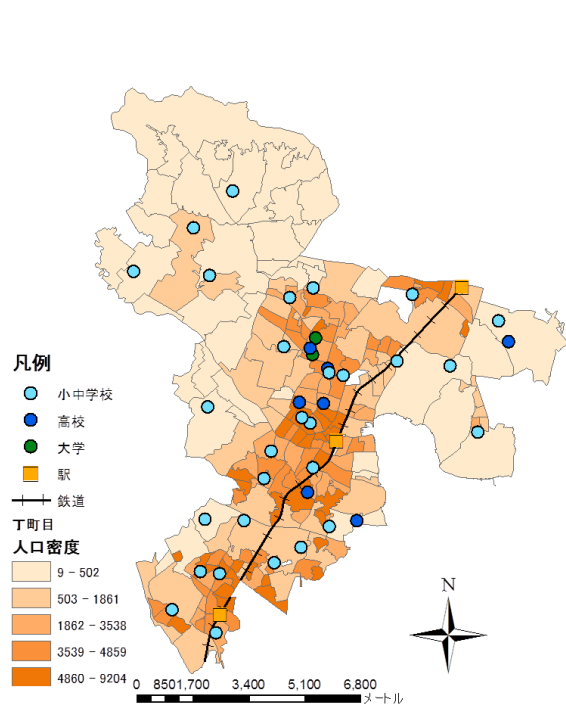


図 8 教育施設の分布

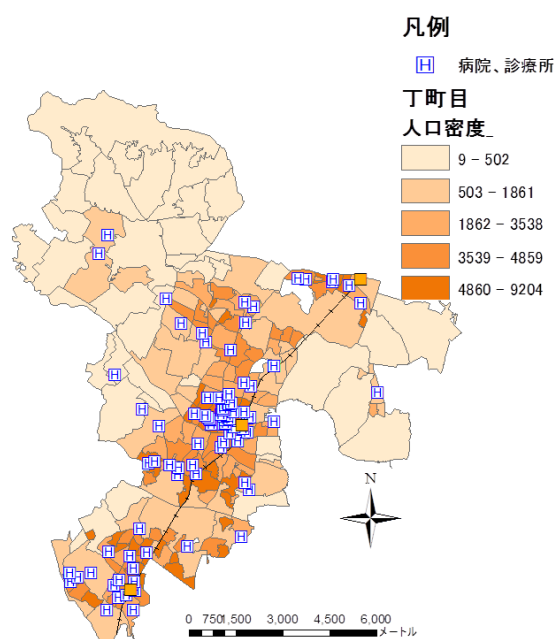


図 9 病院の施設数

2-5. 防災

霞ヶ浦に面した土浦は桜川が流れており、桜川低地が広がっている。桜川低地では低湿地帯の特性を生かし、レンコンを生産しており、生産量全国1位を誇っている。桜川低地の東部では市街地化が進んでいる。駅があるため道路は入り組み、交通量も多い。低地の南北には台地が形成されており、北の新治台地と南の筑波稲敷台地に挟まれたところに低地が形成されている。低地と台地の境界部分が急傾斜地崩壊危険箇所となっており、非常に危険な地域が広く存在することがわかる。以下に土浦市域分類図及び急傾斜地崩壊危険箇所を示す。

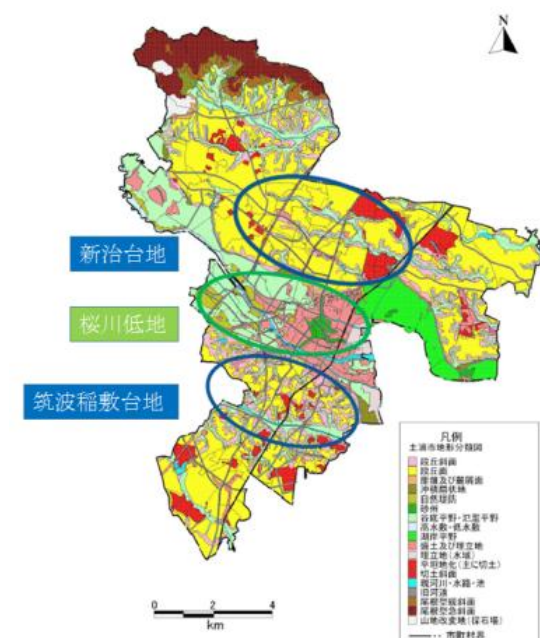


図10 土浦市域分類図



図11 急傾斜地崩壊危険箇所

【洪水被害】

土浦市の地形からもわかるように、南北の台地に挟まれる形で低地が形成されているため、低地を流れる桜川流域では氾濫が発生しやすくなっている。昭和13年に発生した6・7月洪水で霞ヶ浦流域は最も降雨量の多かった地域で、流域平均雨量は連続7日間雨量で600mm（3日雨量で400mm程度）に達し、湖水位は、既往最高のY.P+3.34mを記録したそうである。

【浸水想定区域】

土浦市では霞ヶ浦の湖岸平野と桜川低地の広範囲に最大 5M 以下の浸水被害が出ると想定しており、浸水想定区域を設けている。桜川低地では田畑による土地利用がなされていたが、近年では桜川周辺への市街地化が進み、非常に危険な地域である。さらに、この地域は盛土や埋立地で形成されたため地盤が弱いと考えられる。以下に桜川浸水想定区域を示す。

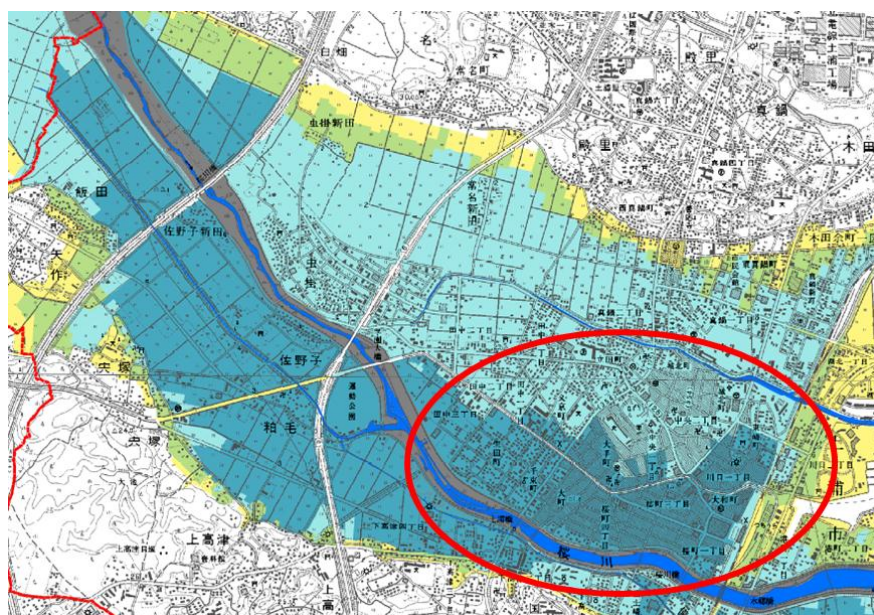


図 12 桜川浸水想定区域 出典：利根川水系桜川 浸水想定区域図

【東日本大震災における土浦市の被災状況（H23.11.1 現在）】

分類図や浸水想定区域より、土浦市中央などの盛土や埋立地がなされた地域は災害に弱いのではないかと考えた。そこで、東日本大震災における土浦市の被災状況を調査した。

表 1 住家被害

全壊	6
大規模半壊	95
半壊	148
一部損傷	4430
合計	4679

表 2 非住家被害

公共建物	100
その他(倉庫等)	711
合計	811

表 3 人的被害

死者	1
重傷	0
程度不明	0
行方不明者	0
軽傷	7
心肺停止	0

土浦市中央や湖北、桜ヶ丘、港町の一部で、古い民家や蔵などの被害が多いことが把握できた。津波による被害なしということで、これは震災時に太平洋につながる水路を封鎖したことで霞ヶ浦まで津波が及ばなかったからである。

【復旧の程度】

公共施設の被害と復旧の程度を知るために、建築指導課へのヒアリングを行った。

①道路陥没等が約 850 箇所

⇒360 箇所(42%)の修繕完了

②国・県・市の指定文化財 70 箇所が被害

⇒順次修繕を実施

③学校施設の耐震化工事等今年度に小中学校 5 校について実施

⇒23 年度末まで学校施設の 80%程度が完了。27 年度末まで市内全小中学校が完了予定

2-6. 市民の声

市民は霞ヶ浦を利用したまちづくりの推進を望んでいることが分かる。さらに、生産量日本一のレンコンを資源と考えている市民が多いことも把握できた。

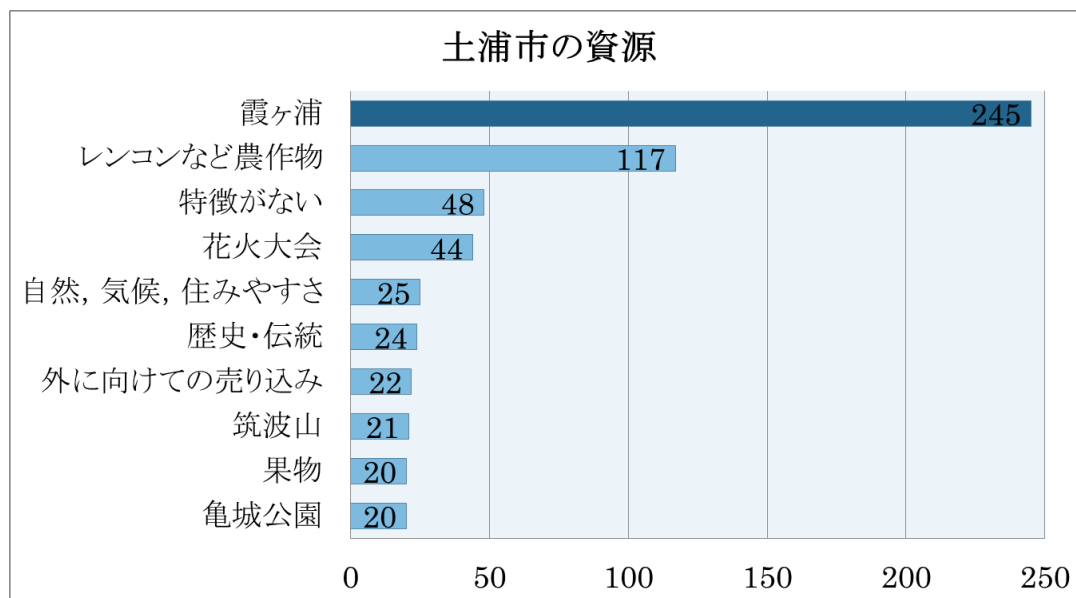


図 13 土浦市の資源 出典：市民満足度調査

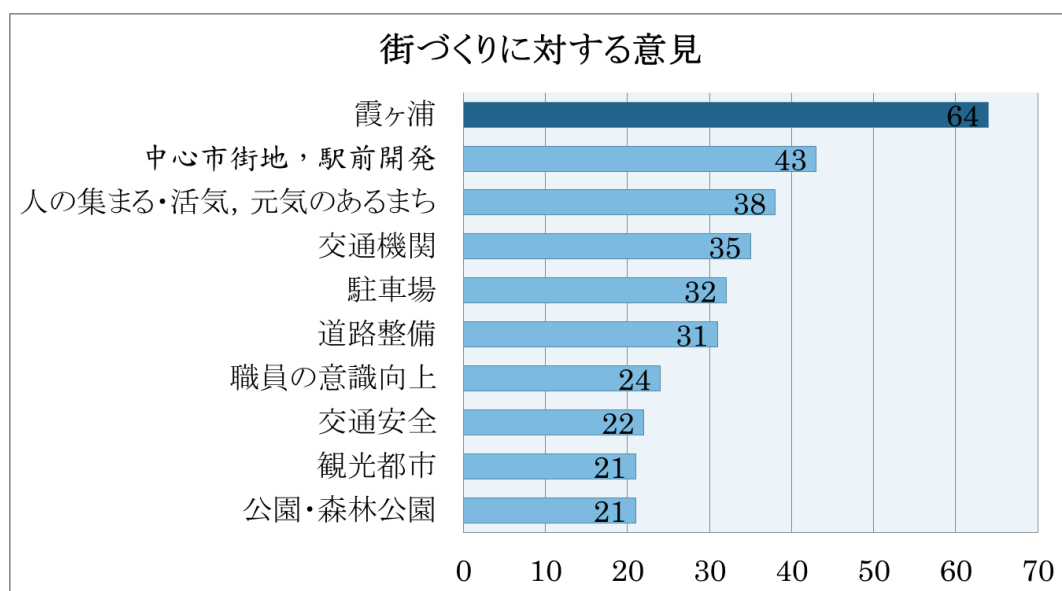


図 14 まちづくりへのアイデア 出典：市民満足度調査

2-7. 霞ヶ浦

霞ヶ浦はその豊かな水資源で、住民の暮らしを豊かにしてきた。また、水辺の気温は緩急が少なく、温暖な気候を保つ。その為土浦は居住環境には大変適している。しかし、人口増加に伴い、霞ヶ浦の水質の環境問題が非常に問題となった。現在、環境教育についても積極的に行われ、水辺の観光資源として伝統的な帆引き網漁も行われている。

2-8. 開発

【幻の開発】

霞ヶ浦ではかつて株式会社プロパストにより開発計画が行われていたが、リーマンショックによりプロパストが倒産、開発計画は白紙。基礎工事も完了し、かなり実現段階に近いところまで来ていたのにも関わらず、幻となってしまった。

【土浦駅西口開発】

現在計画中の段階にある。奥に見えるのは霞ヶ浦で、この開発により、霞ヶ浦と駅を繋ぐ効果が見込まれ、内部に図書館の新設が濃厚。



図 15 土浦駅西口開発

【市役所移転先候補】

候補地は、中央1丁目地区（京成百貨店跡地など）、土浦駅前北地区（大和町・有明町、新市立図書館建設用地など）、川口2丁目用地（京成ホテル跡地区）の3つである。それぞれの評価や市民の意見や協議により今年度中に決まる。

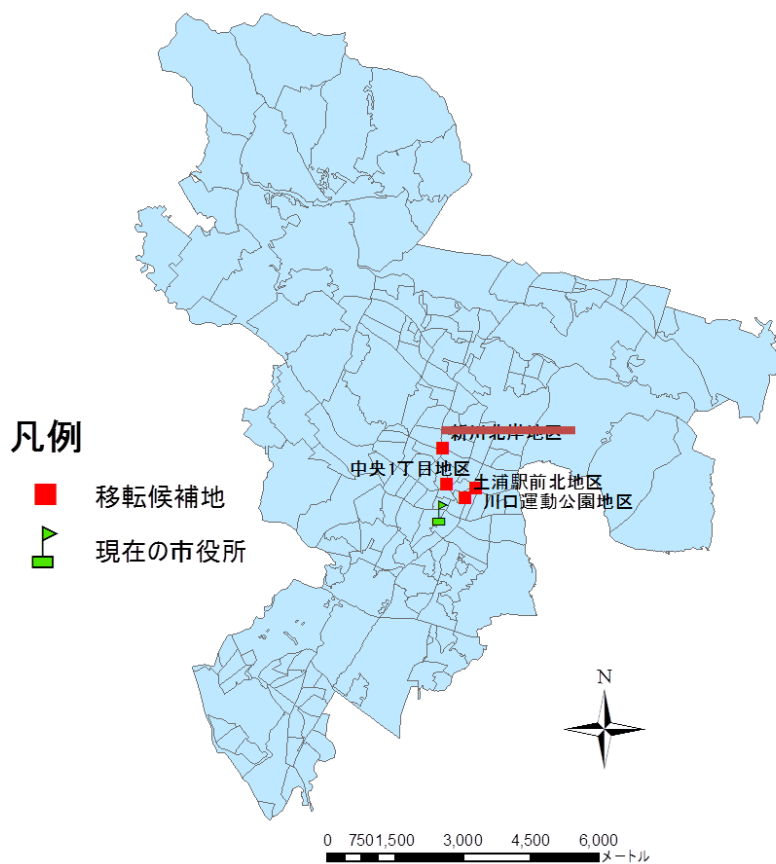


図 16 市役所移転先候補

2-9. 財政

歳入総額： 51,712,369／歳出総額： 50,447,854

歳入が歳出を上回っているため、土浦市は黒字収支である。

【財政力指数】

地方公共団体の財政力（＝自主財源の割合の高さ）を表す指数である。1.0 を超えると普通交付税がもらえない。茨城県内では土浦市は 10 位であり、全国規模で見ると 1821 市町村中第 193 位である。全国的に見ても財政力はあると考えてよい。

第3章 ヒアリング調査実施

3-1. 公民館

故郷と思えるまちには住民目線の意見が必要であると考え、各地区公民館8箇所にヒアリング調査を実施した。なぜ、公民館かという旧マスタープランの地区別の構想に当てはまっており地区別の意見が必要であると考えたので調度良かった。また、住民がよく利用するため、住民の意見が集まるのでは考えた。

※土浦市は公民館に2名の市役所職員を必ず配置しており、市の意見も聞くことができる。そして、公民館は福祉や弱者との交流の場にもなっており、多面的な役割を果たしている。

現在のマスタープランでは市民の意見を聞く場として市民参加が執り行われていた。その中の「まちづくり市民アンケート」などの資料も手に入れ、参考とした。

ヒアリング場所

- ・一中地区公民館
- ・二中地区公民館
- ・三中地区公民館
- ・四中地区公民館
- ・六中地区公民館
- ・上大津公民館
- ・津和公民館
- ・新治地区公民館

次頁に各公民館へのヒアリング項目と結果を示す。



一中地区公民館



二中地区公民館



三中地区公民館



四中地区公民館



上大津地区公民館



六中地区公民館



都和地区公民館



新治地区公民館

○ヒアリング内容

＜地区内容＞

- ・各地区の名所、自慢、誇り
- ・各地区の役割(どんな地域か、特徴等)
- ・各地区で足りないと感じているものは何か
- ・どんな街にしたいか
- ・各地区で抱えている問題
- ・日常買い物の場所
- ・公共交通に関して
 - 使用頻度、使用路線、使用目的

＜自然＞

- ・霞ヶ浦のことをどう考えているのか
- ・霞ヶ浦の利用方法
- ・該当地区における自然の活用

＜防災・防犯＞

- ・震災時の様子
- ・震災後、復興の過程
- ・過去の洪水被害、またその他の被害の有無
- ・避難場所は(市民に)知られているか
- ・防災機能は整っているか、災害に強いまちだと考えるか
- ・防災訓練、避難訓練は行われているか

＜観光＞

- ・どんな街が訪れたい街だと思うか
- ・地区毎のお祭り、行事(ゴミ拾い、運動会等)の有無

＜故郷＞

- ・該当地区において、故郷といえる・思える場所はあるか
- ・地区住民同士の結びつきは強いのか

＜マスタープラン＞

- ・作成にあたり、必ず入れてほしい提案はあるか

＜教育・福祉＞

- ・子供の遊び場は十分か
- ・福祉施設(老人ホーム等)は充実しているか
- ・近くにほしい施設があるか否か

＜中心市街地＞

- ・中心市街地の今後について

○ヒアリング結果

【一中地区公民館：沼崎俊明様】

日時：2012/01/13(Fri)

担当：野澤・堀之内

<地区内容>

名所：亀城公園、霞ヶ浦、博物館、まちかど「蔵」

地区の役割：街中なので人が集まりやすい

問題点：駐車場の問題 学生は駅からそのままウララに流れていくが、車利用者の場合は駐車料金を取られてしまうので、駐車料金のかからないイオンなどの大型郊外店に人が流れてしまう。

<自然>

霞ヶ浦：環境の悪さ

霞ヶ浦の利用方法：ラスクマリーナのPRがしたい、何とかしたいが具体的なイメージを落とし込めないでいる。他の霞ヶ浦隣接地域も同じく何もしていない

地区の自然：穴塚丘池、山がある

<防災>

震災時の様子：小学校は体育館が壊れて使えなくなってしまった。避難している人は多かった。全壊はなかった。道路にもひびが入っていた。つくばと同程度の被害であると思われる。霞ヶ浦は被害なし

防災訓練、避難訓練：総務課が行う避難訓練の実施、各町内にも防災組織がありそちらでも実施している。

洪水被害：昔はあったが、今は桜川も整備済み。台風の来た際には土嚢を積むなどの対策もしている。

安心して住める街か：安心して住める街だといえると思う

<観光>

地区ごとの行事：夏祭り、ひなまつり、カレーフェスティバル、ゴミゼロの日、花火大会

<故郷>

故郷と思える場所：田畑のある穴塚付近の景観

地区住民同士の結びつき：町内ごとには強い

<教育>

子供の遊び場所：サッカー等は学校で行われている。子供会。空き地が少ない。公園は少ない。

教育施設：教育施設は十分である。

老人ホーム：すぐにいっぱいになる。

バリアフリー：駅周辺はエレベータやエスカレータが充実

<中心市街地>

どうあってほしいか：お客を呼べるような魅力あるまち、商店街に足を運んでほしい、復興してもらいたい、駅前の開発

【二中地区公民館：飯塚喜倫様】

日時：2012/01/13(Fri)

担当：伊能・高垣

＜地区内容＞

名所、自慢：ロケ地に使われることが多い、古い校舎の利用

真鍋の桜、新川沿い→立ち止まって見ることの出来る場所の必要性

役割：医療の中軸(共同病院が一番多い)、福祉・買い物の充実

交通：新しい道路は渋滞を招く、多くの利用頻度・交通量の増大で安全面の心配

お年寄りのはのりあいタクシーを利用することが多い

バスは廃線になることが多い

問題：協同病院がおおつ野に移転してしまい、そちらに人が流れる

＜自然＞

霞ヶ浦：きれいになってほしい、夏はにおいがきつい

生活資源として市民に結びついているのはわかる

自然は大切にしたいほうがよい

＜防災＞

震災時の様子：配管の破裂で水浸し、古い家はたいへん

自主的に発電機など貸し出す家が多く、井戸もちの家は開放していた

助け合いが出来ていた。震災当日夜には炊き出しが始まった

昔ながらのまちなのでつながりが強いのではないかと

井戸もちの家が多く、張り紙をしている家も多かった

浸水マップで水害の様子を示している

＜観光＞

訪れたくなるまちとは：京都のような街並みの美しいところ

地区ごとの行事：お祭りがさかん

＜中心市街地＞

どうあってほしいか：駅が市の玄関口として成り立てばよい

問題点：このままではつくば市に人口が流れてしまうのでは

車社会なので駐車場がたくさんあるのはいいが、駅周辺は駐車場料金をとられてしまう

駅前より郊外のほうが賑わっている

【三中地区公民館：中川輝美様】

日時：2012/01/13(Fri)

担当：野澤・堀之内

＜地区内容＞

名所：乙戸沼公園、小さな仏閣もある

地区の役割(特徴)：市内で最も都心に近い地区、都心に勤める人が多い

宅地造成が行われたため、新旧の家が混在している状態。町内が分か
れると交流も難しい

昔ながらの街並みは無

商店街無

問題点：荒川沖事件により防犯に対するイメージダウン

住民も防犯に関しては力を入れている。

日常買い物：カスミ、マルヘイ、MEGAドンキ、ジョイフル本田

公共交通：土浦～荒川沖のバスの廃止。それに伴い、新治からのコミュニティバス運行の

計画もあったが、まち単位での運営になるため、リスクを考慮し計画白紙

乗り合いタクシーの利用者が増加

つくバスが土浦まで延びたら…

キララちゃんバスは市街地のみ

＜自然＞

霞ヶ浦：距離が遠いため関心が薄い、霞ヶ浦までの交通が不便

地区の自然：乙戸沼公園が自然資源として活用可能

＜防災・防犯＞

震災時：屋根瓦の落下、水が遅くまで出ない(排水上が霞ヶ浦の水郷。近くの人が使うため

圧がかかり中々届かなかった)、液状化による地盤沈下

避難所の小学校の体育館が壊れており、機能を果たせなかった。

福島からの原発避難者も受け入れ

市民がボランティアで炊き出しを行うなど

洪水被害：昔、乙戸側の氾濫。現在は整備されている。

防災機能：井戸水を持つ人が多く井戸水MAPの作成がなされている、炊き出し練習や避

難場所の案内など

避難訓練は各町内で行われている

<観光>

地区ごとの観光：乙戸沼公園がウォーキングと桜でのみ有名だが、実際は越冬する鳥（白鳥など）が数多く飛来
野鳥観察などをもっとPRしていきたい。
基本的に住宅地なので、新しいものをつくるスペースは無
体育の日付近で市民運動会有(毎年1回)
町内ごとの夏祭りもある
「荒川沖DO！！SPE会」(2004年11月結成)→季節ごとに様々なイベントを企画
公民館にて文化祭を開催、延べ2,000人ほどの来場者

<教育・福祉>

教育：平日昼間の子供向けの企画は人が集まらない
→共働きの家庭が多く、母親が子供を外に連れ出せない
遊び場所：各地区に公園有、雨の日でも遊べるような場所があればなお良し
生活施設：充実

<中心市街地>

問題点：魅力の欠如
無料の駐車場が無い→車で訪れられない→行かない
中心市街地の開発を行うのであれば、荒川沖周辺の開発も行ってもらいたい
郊外に大きな物が出来れば、そちらに人が集まるのは必然的

<三中地区の特徴>

◎市民が活発に活動している地区。広報誌も市民によって作られている。
◎住民が自らまちを良くしていきたいと思い、行動していくことが大事。その活動を支援するのが市であり、その活動をPRしていくのも市の仕事。
新しく開発を行う問いではなく、住民が自発的に活動していくことが、今後土浦市に必要なのではないか

【四中地区公民館：下村浩様】

日時：2012/01/17(Tue)

担当：伊能・野澤

<地区内容>

- ・市役所から近い場所にある
- ・公民館一中地区と同じくらいの利用者である
- ・公民館利用者は高齢化傾向。若年層は働いているため利用せずリピーターは限定される
- ・住宅地が多い

<自然>

- ・霞ヶ浦より新川などのほうが身近である
- ・アオコによる異臭問題あり。環境面での取り組みを9月に行う

<防災・防犯>

- ・個人単位では町内で協力ができていた
- ・行政主体が強い
- ・地盤が弱く、液状化の被害が甚大であった。転居で回避した
- ・避難訓練は市と町内会でやっていた
- ・水被害のハザードマップでは霞ヶ浦は国交省で桜川は県で作っていたので市でまとめた

<観光>

- ・博物館、考古資料館、貝塚など歴史的な名所が存在する

<マスタープラン>

- ・高齢化社会を見通した公共交通の発達を願う
- ・コミュニケーション構築、ソフト面の改善（希薄になりつつあるため）

<中心市街地>

- ・活性化してほしいが、時代に適応していくことを考えると高齢化すると公共交通が発達した中心市街地に人々が戻ってくる可能性も考えられるのではないか

【自分が住む地区を100点で評価すると？】

60点

減点対象はコミュニティーの点。

町内会は強制にはできないのでみんなが参加するわけではない。

【上大津地区公民館：秋山太様】

日時：2012/01/18(Wed)

担当：野澤・高垣

上大津地区はおおつ野や神立にあたる地域である。蓮田が広がり昔ながらの農業が盛んな地域である一方、神立のあたりは工場などがあり工業のまちという面もある。そしてさらにおおつ野については現在も開発が進められている地域であり、協同病院の移設が決定したことでも注目されている。

〈わかったこと〉

- 土浦がレンコン生産量で日本一であるということは土浦の中で一番レンコンを生産している上大津が日本一である。
- 昔から寺社は多いが文化財にはなっていない。
- 町内会に入る率は非常に高い。特に神立地区の人々の結びつきは強い。
- 老人ホームは充実している。
- 3.11 の震災時には、翌日から各町内では炊き出しを行っていた。また、高台に住む人は水がなかったが、低地に住む人の中で井戸水が出る家が協力していた。
- この地区では昔からならせ餅の習慣があり五穀豊穡を願って行われている。
- まちへのリピーターが少ないので何度も来たいと思ってもらえるようなまちにしたいと館長は望んでいた。



図 17 公民館に飾られたならせ餅

〈問題点〉

- 高齢化が進んでいる。
- 交通が不便である。
- 神立には買い物できる場所があるが上大津の方には買い物場所がない。
- おおつ野では子供が増加しているがそれ以外の地域では子供が少ない。

【六中地区公民館：今野修様】

日時：2012/01/18(Wed)

担当：伊能

<地区内容>

名所：総合運動公園、公園、霞ヶ浦高校など小中高等学校、自衛隊、公務員が多い、
東京へも近い、ツェッペリンがコロッセをふるまった

特徴：北のほうは古い家が多いので井戸もちが多い可能性が高い

3 世代の人々が主に住んでいる(昔からの人・団地に住んでいる人・区画整備で住んだ人)

公民館の利用は年間6万6千人

1人暮らしの方にお弁当を届けている。このお弁当の掛紙を地元の中学生に書いてもらっている(この地区だけの実施か)。新聞にも取り上げられている。

世代間交流が間接的に行われているのでは。

交通：都市バスが運行、交通の便がよい

駅まで行けば便利

高齢者の方も困らない状況、最低限度の設備はある

学生視点：各地区に設備設置、情報の充実などが求められる一方でそれを使えない人たちが出てくる。高齢者やその他弱者がそれである。そのために何をすればよいのか。

欲しいものは何か：ここにはないもの

役割：地域の拠点、公民館、コミュニティーセンター、福祉

このように公民館を位置づけし市の職員を配置して活動しているのは土浦市くらい
ほかは囑託を使うところが多い

「社会教育法」により公民館の役割が緩やかになってきたので、福祉の機能を被せて人と人とのふれあいネットワークの拠点にしている・できる

弱者とのつながり・連携をとることができる

障害学習、コミュニティーづくり→市民委員会

<自然>

霞ヶ浦：開発を霞ヶ浦でする必要性はない

霞ヶ浦の利用：ライトアップや多少の整備はやってもいいのではないか

夜景やロケ地を利用したらどうか

かすみがうら市のイルミネーションの個人の家

人を集客する施設があってもいいと思う

多面的で複数の機能を持った施設が理想では

<防災・防犯>

震災時の様子：停電、断水はあったがまあ他地区と同程度

公民館は給水施設としても役割を担った。

公園の水をみんなでわけたり、見回りやブロック塀を直すということを自主的にやっているところもあった。

避難場所：市民からは学校ではという雰囲気があった

若い夫婦や单身の方には場所特定が難しいのでは

防災機能：防災無線たくさんある、毎日5時に点検放送→3.11に機能

防災訓練・避難訓練：安心・安全をうたっている

防犯パトロールという組織がある

夜間巡回など行っている

抑止力になる

<観光>

地区の観光：商業、霞ヶ浦・筑波山などの自然

事業を多く展開、市民が中心にしていることも多い→クリーン作戦等

観光客を呼び込むために：文化芸術を高めることもそうではないか→なかなか難しい

ギャラリー、展示、文化を広めるものはたくさんある。

四季を通した集客

花火とマラソンが集客多い。マラソンは東京・奈良・土浦（大阪が入ると下がるかも）が3大。大会イメージいい。数年前嵐の二ノ宮が主演のドラマで使われていた。

<故郷>

故郷と思える場所：何を故郷として捉えるのかにもいえるが、一般的には田園風景や筑波山など、視覚や味覚など

住民同士の結びつき：若年層が土浦市に求めるものの欠乏

→住み着くひとの減少

年1回の食事会を行っている。民政委員、市区長、ボランティアを中心にしている。

おもてなし＋絵手紙など

児童の歌や踊りも実施する。

地域全体で盛り上げていく雰囲気。

つながりはつよいといえるのではないかな。

若年層を呼び込むのが課題。

<教育・福祉>

世代間交流→20歳前の人々はなかなか来ない

親の世代→子育て

子供→習い事やスポーツ少年団、いろいろやっている

お祭り→子供の減少

子供の遊べる場所より時間が少ないのでは→「三間の喪失」時間・仲間・空間

<中心市街地>

どうあってほしいか：元気になってほしい

土浦イオンもつくばにイオンができるので心配

どうすべきか：食事の面とかでもっと活性化したらどうか

PRの力が足りない→マスメディアの力を利用

「ふななと」←有名人が来ている

「アルル」・・・などお菓子業者もたくさんある

地元の人知っている

アピール不足→商工会のひとは危機感を持っている

◎「トランスポートサービス」→次世代事業に。

今まではドア to ドアだが、高齢者や弱者を買い物するところまで連れて行く。

人が乗ってどこかへ行く。

買う楽しみというものがあるので自分でやる・できる。

そういうことができる拠点や設備が欲しいかもしれない。

車を止めるスペースとか。地域に根ざしたところを。

【都和地区公民館：田口均様】

日時：2012/01/13(Fri)

担当：伊能・高垣

<地区内容>

名所、自慢、誇り：農家（7～8割）、勤労者、一戸建て、混合地域

団結力がある、特色出しにくい

役割(どんな地域か、特徴等)：土浦市に活気をつける。危機管理がないのでは。住みやすいし、不便もあまりないから外部に発信する必要がない。

足りないと感じているもの：交通網整備、公共交通

地域が良くなるために：人にやさしいまちづくり

<教育・福祉>

福祉は全般進んでいる。バリアフリーは必要なところにはやらないと意味が無い。

公共施設とか人の集まる場所に。

教育施設は全て整っている。生涯学習として、いろいろやっている。野球場の開放
活気ある地区を目指す。

<観光>

観光資源：筑波山、新治地区、インターチェンジあり、バイパス、交通は充実。

<防災・防犯>

震災時の被害：損耐震前の建物が多い

防災クラブ：自主防災 130～170 町内会で危機管理、初期消火、避難誘導など行う

防災意識づけが必要

<自然>

霞ヶ浦：観光PRしたほうがよい。きれいにする。人が泳げるようにとか。

交通アクセスもいい。アピールすべき。

霞ヶ浦の利用：流域にレジャーランドができればよい。

観光、立地は最高。恵まれている。観光都市として生きていけばよい。山も湖もある。住むところが充実している。

<中心市街地>

大型店舗による中心市街地の衰退化についてバランスを取ることが出来ればよいのでは
ゾーンでコンパクトシティを。

<マスタープラン>

運動公園整備して大会の誘致。活気とかもらえる。交通もいいし。実効性がある。

【新治地区公民館：須藤弘様】

日時：2012/01/13(Fri)

担当：伊能・高垣

＜地区内容＞

名所、自慢、誇り：安らぎ、自然、住みやすい

役割(どんな地域か、特徴等)：安らぎ

足りないと感じているもの：公共交通がない

バスの廃線、利用者の減少（1 便に 1 人いないくらい）、お年
寄りへの配慮

問題：高齢者の一人暮らしの方への配慮

日常買い物：さん・あびお、農協、小さい商店、中心市街地まで 15 分程度なのでそっちに
も流れる、学園都市も近い

公共交通：足りない、利用者も少ない

＜自然＞

霞ヶ浦；霞ヶ浦は身近なものではないと感じる。つくば市と合併したかった経緯もある。

魅力がない。水が汚い。

霞ヶ浦の利用方法：人工島を湖の中心において観光利用

自然の活用：あさひ峠、小町の館、パラグライダーなど自然に調和した観光施設がある

＜防災・防犯＞

震災時の様子：瓦の屋根が落ちる程度

筑波山麓があるので放射能の数値も低い

避難場所は(市民に)知られているか：ある程度知られていると思う

防災機能：交通機能の充実を図るべき、陸の孤島化を防ぐため

輸送機能を強化していくべき

訓練は地区内で行われている

＜観光＞

訪れたい街とは：見るところがいっぱいあるところ

地区毎の行事：毎年 10 月公民館で 3000 人来る。

あさひ展望公園から見る景色

＜マスタープラン＞

作成にあたり：自然を壊さないように公共交通を発達させる

<教育・福祉>

子供の遊び場は十分か：あまりきかない

教育施設、指導：ある程度充実

福祉施設：福祉施設は他の地区から来るほど充実している

【自分が住む地区を100点で評価すると？】

50点は超えるのでは？住みやすい。

その他：観光は施設を利用した周遊バスなどやったらどうか。神社とか文化が立派。

あさひトンネルの開通で石岡市からつくばや土浦に向かう人が新治地区を通るので変化はあると思う。

観光に関して常時人が来てくれるようなものにしていくべき。

中心地は衰退している。郊外の大型に取られる。駐車場のせい。

一人暮らしの人を外に出すためにどう工夫する。

催し物や旅行を計画するが、身体の不調・団体行動がいやだとの理由から30%くらいの参加が見られる。福祉センターのお楽しみ会は年に2回。これは40%くらいの参加。

3-2.さん・あびお

市役所の方々に声をかけていただき、新治にあるさん・あびおにて開催された餅つき大会に参加させていただいた。その際、住民の意見を聞くことが出来た。以下その結果を示す。

【住所、年代、性別

【新治地区本郷、70代、老夫婦】

家から0.5kmと近いので歩いてきた。

コミュニティバスを活用している。高齢者は車に乗らないので助かる。

足りないもの：高齢者のための買い物特に洋服を買えるお店がほしい、病院は

自慢できるもの小野小町の墓、ひえい？神社、小野田

PRしたいものはお祭りからかさ万灯祭り(大畑)

地域住民同士のつながりは強い

高齢者同士は福祉センターに集まる。若い人は仕事で集まることがないのでは。

霞ヶ浦はもったいない・・・昔はきれいでワカサギがいたのになあ、今はアオコの問題もある

じゃあ霞ヶ浦をどうしたいですか→もうどうしようもない

羽田空港か成田空港が霞ヶ浦周辺に作られるという話の実現していれば活気があったかもしれない。→しかし当時は反対意見ばかりだった

基本的に自慢できるものもほしいものもない。

暮らしていけるから十分

こういったイベントはあったほうがいいと思う。

【新治地区大畑、40代、男性（大阪から転勤で）】

<自慢>

レンコン レンコン畑を見ると故郷と感じる

足りないもの

大型ショッピングセンター あびおをイオンモールぐらいの規模に

⇒普段はイオンで買い物

活性化のある街にしたい

<観光資源>

小町の里 少なからず観光資源になっている。

からかさ万灯祭り・・・神社で行われる。屋台などあり。大規模な祭り。子供のための祭り。

<霞ヶ浦>

ゴルフをしたり、遊覧船に乗ったりしに行くことがある。

霞ヶ浦を観光資源にしていくには、水をきれいにする浄化槽の仕組みを整えていく必要がある。開発に当たって、市民の税金が使われることに対して共存・共栄であるため全員でまかなう必要があると思っている。

総合評価 70 点

マイナス要因・・・自動車による騒音、沼地であるため地震等の被害が多い

【新治商工会の方】

つくば市の住民はバスに慣れているけど、土浦市の住民は慣れていないので 200m 先のタバコを買いに行くにも自動車を使用する。

◎住民の価値観は変わっていくもの。

バスは必要だと思っているが需要がない。⇒なんで？

高齢者をバスに乗ってもらえるような提案をしていく？

もちつき大会について

場所：さんあびおセンターコート

参加者：子ずれの親、60～70 代の高齢者

100 人程度

おもちがなくなり次第終了

無料配布が集客に繋がった。

お餅つきに住民の方々、お子さんも参加していた。

3-3.その他

随時必要な情報に応じて、様々な団体や個人様にヒアリングを行わせていただいた。以下、その結果を示す。

【土浦市役所都市計画課：東郷裕人様、長坂英治様】

日時：2012/01/20(Fri)

担当：伊能・高垣・野澤・堀之内



図 18 市役所

開発の実現性はあるかとお伺いしたところ、市民の同意形成やその開発の地権者の同意が得られないといけないことが難しい点であるということであった。

現在では大和町北や駅北、駅東口、J R貨物ヤードでは開発の可能性があるらしい。具体的には決まっていない。観光客は減少傾向にあるものの、宿泊客数が増えている原因は何なのかとお伺いしたところ、駅周辺にはビジネスホテルが多数存在し、それによる効果なのではないかということであった。また、桜町の利用客が起因しているのではないかとも言われているようだ。財政的な面では土浦市は毎年プラス収支である。その黒字収支はどこにいつているのかとお伺いしたところ、今は貯めている現状であり、開発するにもそのきちんとした理由や根拠などあらゆるハードルを越えないとそういう部分に使えないということであった。

開発について市民の意見を反映しているのかとお伺いしたところ、駅の西口に図書館と住宅地を開発する計画があったが市民から住宅地はそんなにいらないだろうとの意見があり、図書館のみの計画となったという経緯がある。

霞ヶ浦に関係のある河川の親水事業・川まち事業を展開してく予定であるそうだ。ハード面の対策を行うより郷土愛の育成を育てたほうがよいとの指摘があった。

【土浦市 市長公室 政策企画課：平井康裕様】

日時：2012/01/20(Fri)

担当：野澤

今回「ふるさと納税」という制度に着目するにあたり、土浦市での「ふるさと納税」の現状を知る必要があった。そこで土浦市の政策企画課へのヒアリングを決行した。本当は実際に会ってお話を伺いたかったところであったが、忙しい時期であったためメールでのヒアリングに応じていただいた。

〈わかったこと〉

- 土浦市が掲げるふるさと納税の 4 つのプランは第 7 次土浦市総合計画の基本理念を踏まえて決められている。
- 4 つのプランのなかでは「あんしん・あんぜんプラン」の活用が多い。
- 寄付をいただいた方には礼状の送付のほか、市広報誌の送付を行っている。
- 近隣のつくば市やかすみがうら市からの寄付者が多い。
- 具体的には市内に家族が居住している方、市の出身者、かすみがうらマラソン参加者、市の職員等が寄付している。
- 平成 22 年度はいただいた寄付の約半分を災害復旧費として活用した。
- 現在は市のホームページや広報誌によって報告を行っている。また、かすみがうらマラソン大会にてパンフレットの配布を行い制度の周知 PR を行った。

寄付金は平成 23 年度に次のとおり活用することにしました。

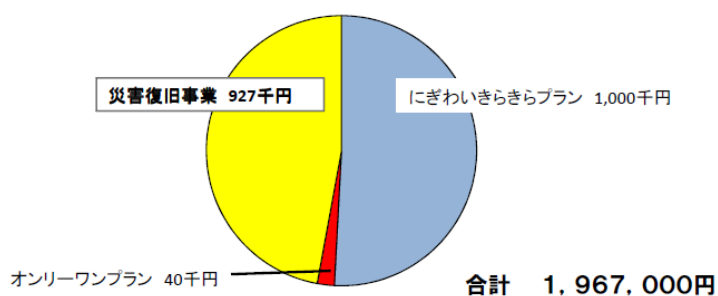


図 19 平成 23 年度の寄付金の活用先（いただいた資料より）

〈問題点〉

- 納税額、納税者数は年々減少している。
- 本市出身で市外・県外にお住まいの方々への周知や PR 方法不足
パンフレット等は導入時には、作成していたが現在はホームページのみ

【ラクスマリーナ代表 秋元 様】

日時：2012/01/20(Fri)

担当：伊能



図 20 ラクスマリーナ

霞ヶ浦は豊富な資源があるにも関わらず開発が進められない理由は何なのかお伺いした。水辺には市の所有地や県・国の所有地が混在しており、使用が難しい部分がある。霞ヶ浦へは市民の具体的な意見が明らかにならない部分が多い。以前株式会社プロパストの計画の経緯を一通り教えていただき、それはリーマンショックによって実現不可能になってしまったわけであるが、霞ヶ浦での開発、整備計画というものはやりようによってはニーズに対応するものができるのではないかと感じた。また、土浦市全体のお話も聞くことができた。土浦駅は常磐線の車両数の増減のターニングポイントとなっており、交通の便のよさが現れている。海軍のまちであったため、医師数が多く、学校数も多いので教育もしっかりしていることを仰っていた。これからの計画ではあらゆる時代に適応可能なスパイラル的手法が求められる。あえて完璧なものは作らず、柔軟性のあるもの、ということだ。同席していた市職員の東郷さんによると市としては計画では完璧なものをつくらなくてはならず、余白を残してということにはなかなかいかないようだ。

【茨城県生活環境部】

日時：2012/01/20(Fri)

担当：堀之内

霞ヶ浦の現状、および問題点・解決策を把握するために行ったヒアリング。霞ヶ浦は土浦市のみならず、茨城県内の様々な市町村にまたがっているため、県による管理についても知る必要があったため行った。

〈わかったこと〉

- 霞ヶ浦には様々な河川が流入
- 霞ヶ浦にはアオコの餌であるリン・窒素が豊富
- 水質が改善したことで光が霞ヶ浦の中に差し込むようになり、アオコの光合成が触発された
- 浄化するためには下水道工事、および最新の浄化槽の設置が必須
- 霞ヶ浦に対する学習プログラムは様々なNPO法人により組まれている現状
→県からの補助は約 20 団体
- 県の税金で賄える範囲でしか事業が行えない

〈問題点〉

- 霞ヶ浦周辺の人々は霞ヶ浦の水質汚染に対して責任を感じているが、霞ヶ浦に流入している河川周辺の人々にはその感覚が乏しい
- 古くからある家は下水道工事などを中々してくれない
→対策として、法令を定めるおよび県からの呼びかけは行っている
- 霞ヶ浦の水質浄化には長期スパンの計画が必要

【ふれあいセンターながみね：職員様】

日時：2012/01/25(Wed)

担当：野澤・堀之内

土浦市南部に位置する「ふれあいセンターながみね」。この施設には温水プールや浴室が設けられており、そこには隣接する土浦市清掃センターでゴミ焼却時に発生する余熱が活用されている。私達は、ここが市民の憩いの場として機能しているのか、またどういった体系で運営されているのか等を知るため、ヒアリングを行った。

〈わかったこと〉

- 元々は市が運営していた施設
→2011年3月から民間委託
- 隣にはデイケアが立地
- 現在でも市から補助が出ており、市民は安く利用できる
- 温水プールや浴室の他にも多目的ホール等も完備
- 無料送迎バスが一日3本、各日で2ルート走る
- 土日の利用者が多く、月平均で6,700人が来場
- 60歳以上の市民が毎日100人以上来場

〈問題点〉

- 無料バスの利用者が少ない
→車の利用者が多数
- 交通手段があまりなく、来られない人が多い
- 無料バスが特定の箇所しかまわれない
- お年寄りが来る場所として認識されており、若者があまり来場していない



図 21 ふれあいセンターながみね

【茨城県霞ヶ浦環境科学センター 環境活動推進課：宮本直樹様】

日時：2012/01/26(Mon)

担当：伊能



図 22 環境科学センター

霞ヶ浦環境科学センターでは、「霞ヶ浦水環境学習プログラム」という幅広い世代に対応できる親水活動が取り組まれている。私たちはこれに着目し、霞ヶ浦の環境改善に利用できるのではないかと考えた。霞ヶ浦では水質改善の活動が十二分に行われているが、それには住民の意識の改善が求められる。そこでこのプログラムを拡充させることで住民の意識の改善への提言になる。子供たちがプログラムを通して霞ヶ浦について学習し、この原因は自分たちにもあるということを実感させ、それを家庭にも浸透させるという目的もある。

また、霞ヶ浦の実情を次の世代にも伝えていく必要があり、このような地道な親水学習活動は必要不可欠である。このプログラムは主に小学生に多く行われているようにみえるが、プログラムの内容自体は各世代に対応できるように柔軟性があることがわかった。そのため実際には幅広い世代で行われており、県外からも多くの人が訪れている。

私たちはこのプログラムの効果とこのプログラムを受講前後の住民意識変化について何かわかることがあるのかをお伺いしたが、このプログラムの存在自体が新しいものであり、そこまで調査できていない現実があるということがわかった。

プログラムは学校で行われていることも多く、霞ヶ浦環境科学センターでは学校の授業の一環として組み込んでいきたいとの意向もあるが、学校のカリキュラムは柔軟に外部の学習活動を組み込みにくい体質があるようだ。それでも本プログラムは学校に受け入れられている実情であるとも考えられるが、更に教育に結びつけていきたいところだ。学校のない日に環境について興味のある子供たちを集め霞ヶ浦の環境について調査したり、プロ

グラムを体験した子が下の世代の子に発表したり、広範囲での発表の活動も設けている。その広告を各小中学校の生徒に配布している現状であるが、その成果はどの程度なのかを知る術はない。

今後はウェブの充実をはかり、親水活動に力を注いでいるNPO法人との連携を図っていきたいとのことであった。NPOの活動では『桜川探検隊』など親水活動を行う団体がいくつもある。各川でも同様の活動がなされており、霞ヶ浦は小中 56 河川から流入していることから河川での親水活動を推進していく必要があると考えられる。土浦といえば霞ヶ浦、霞ヶ浦での水環境学習プログラムが盛んであるということを更に外部に示す必要がある。



図 23 霞ヶ浦環境科学センターから頂いた資料

霞ヶ浦環境科学センター <http://www.kasumigaura.pref.ibaraki.jp/>

【モール 505：高野様】

日時：2012/01/30(Mon)

担当：野澤・高垣

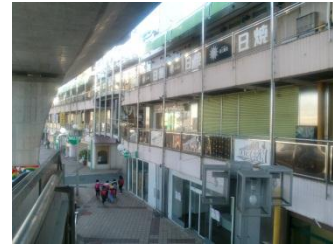


図 24 モール 505

モール 505 が衰退している現状であるが、現在のモール 505 の店舗状況などについて「まちなか交流ステーション」にて伺った。

〈わかったこと〉

- 現在モール 505 に入店しているテナント状況は、しっかり把握している。
- 「まちなか交流ステーション」には“みんなで創ろう交流マップ”があり土浦のおすすめスポットやおもしろい情報をここに訪れた人が書き込めるようになっている。

〈問題点〉

- 店舗を紹介したパンフレットを作成したらどうかという質問に対しては店舗がしょっちゅう変わってしまうためパンフレットを作成することができない。
- 1 階は空き店舗が少ないが、2 階、3 階に上がるにしたがって空き店舗の数も増加している。



図 25 みんなで創ろう交流マップ



図 26 栈敷席想定場所と土地所有者

【都市計画課：東郷裕人様】

日時：2012/01/30(Mon)、2012/02/10(Fri)

担当：野澤・高垣・伊能

提案に必要な情報について 2 回ほど市役所を訪れてヒアリングを行った。

〈わかったこと〉

- 新治のコミュニティバスには朝タルートと昼ルートとがあり今年の 1 月 15 日～21 日に昼ルート無料運行キャンペーンを開催した。(さん・あびおのもちつき大会で PR)
- 通常の 3 倍の乗客があった。(1 週間で 198 人：朝夕 16 人、昼 182 人)

栈敷席整備の場所については土地の所有者が市、県または国であることを調べていただいたので、整備事業を行うという提案をしても大丈夫であろうということであった。

【中村四丁目町会：小林敏夫様】

日時：2012/02/08(Wed)

担当：伊能・堀之内

中四鍋会（なかよしなべかい）は町内会で組織されたもので、町内外の方々に関わらず、けんちんうどんをみんなで食べるという行事である。まずは食。ただで食べられるという点で人を集めるのである。

コミュニティー強化は非常に重要であると考えている。ここでは防災活動も行われ、オリジナルでハザードマップを作成し、お母さん方が子供たちに説明する時間を設けている。子供たちが飽きないようビンゴ大会も行っている。

町内会の組織づくりとして、古い町内会では役員が何年も続けている現状であるが、新しい町内では役員は1年くらいで交代してしまう。これでは、1年で培ったノウハウが引き継がれない。その為、この組織を改善する必要があるのではないかというご意見を頂いた。

一人暮らしの人の町内会の参加やコミュニティーのあり方について各地で問題視されている中、ここ中村四丁目地区ではつながりさえあればその点は補えるとし、鍋会に交通や身体面で不都合のあるご家庭にけんちんうどんを配りに行くということも行っている。これは直接顔を見合わせることの重要性を示している。いざというときに地域に根付いたコミュニティーは防災や防犯の面、地域のあり方に非常に役に立つ。



図 27 ヒアリングの様子

【土浦市 観光協会：菊田様】

日時：2012/02/10(Fri)

担当：野澤



図 28 まちなか桜めぐりバス

<http://www.kuriden.co.jp/blog/201004/05172720.html>

土浦市で既に無料バスが走っている。それは、「土浦桜まつり」の期間に走っている「まちなか桜めぐりバス」である。無料バスの提案の参考のために電話によるヒアリングを行った。

〈わかったこと〉

- 現在土浦桜まつりの期間(2011 年は震災のため桜まつり自体が中止、2010 年は 6 日間)
- まつりの期間中のうち土日にバスが運行していた。
- 市の補助金や町中の商店や企業による協賛金で無料運行を行っても収支が取れている。
- 赤と緑の 2 台のレトロバスが走っているがこれらのバスは「日本バス友の会」から借りているものであるという。
- 元々赤いバスは山形で緑色のバスは三重で昭和に使われていたバスであり一日一台あたり 10 万円でレンタルしている。
- レトロバスを使用している理由は客引きのためであるという。ご高齢の方々には人気であるという。またお子さんにも珍しいので乗ってもらえているということだった。

【土浦市 商工観光課】

日時：2012/02/10(Fri)

担当：野澤

現在行われている土浦花火大会を霞ヶ浦の湖上で打ち上げる提案をするために現在行われている花火大会の現状や費用について電話にてヒアリングを行った。

〈わかったこと〉

- 安全距離を確保するためには最大の花火を考慮し半径 290m が保安区域である。
- 花火大会の費用は一年で 2 億円である。内 3 分の 1 が栈敷席による収益で賄っているということだ。
- 栈敷席の全マスは 6 名までで 19,000 円、半マスは 3 名までで 9,500 円で販売している。
- 現在 6000 マス用意されているがこれが限界でもう増やせないという。
- 現在の栈敷席予約は殺到していて倍率は 10 倍もあるという。
- 2、3 週間前から窓口前に並んでいることもあるらしい。

【商工観光課：登坂裕明様】

日時：2012/02/17(Fri)

担当：野澤・高垣



図 29 現在運行しているキララちゃんバス

現在走っているキララちゃんバスについてお話を伺った。今回われわれがバスの提案を行うにあたり、キララちゃんバスの運営状況を把握しておく必要があると考えた。主に無料バスになった際の効果を知るためにヒアリングを実行した。

〈わかったこと〉

- ウラビルオープンの際にキララちゃんバスのうち 2 コースが試験的に無料で運行していたことがあった。
- 無料運行期間は平成 9 年の 10 月 4 日～12 月 28 日でコースは中心市街地循環ルートと合同庁舎－土浦駅往復ルートが設けられていた。
- 1 便あたりの乗客数は中心市街地循環ルートで 8 人、合同庁舎－土浦駅往復ルートでは 15 人であった。
- バスの運行事業費に関しては、車両減価償却を 5 年で行っていた。
- 国・県・市からの補助金を得て、現在では運賃収入が 30%を超える状態で事業が成り立っている。

〈問題点〉

- 現在は走っていないルートが無料で運行していたので単純に無料になると乗客数が増えるかどうかの指標として考えるのは難しい。
- 現在運賃収入が 3 割を超えているが、市としてはこのキララちゃんバスの運行状況が最低でも満たされていないのと新たなコミュニティバスを通すなどの政策には乗り出しにくいと考えているようだ。

【市民活動課：谷中様】

日時：2012/02/08(Wed)

担当：野澤・高垣

〈わかったこと〉

- 土浦市には 171 の町内会が存在すること。
- 市では町内会の詳細については把握していない。
- 町内会の区分は基本的には丁目単位であるが、中にはマンションや団地単位のものもある。

【JA 土浦 営農部 園芸振興課 : 山口崇一様】

日時：2012/02/13(Mon)

担当：伊能

土浦市のレンコン農家の方にレンコン掘り体験をさせて頂いた折に農協の方がレンコン掘り用の仕度を用意くださり、レンコン掘り体験の実現性など様々に教えていただいた。まずレンコン掘り体験は現在恒常的には行われておらず、雑誌やテレビ番組の取材で行われていることはあるようだ。地元小学生に体験させたりはしないのかとお伺いしたところ、泥水の深さや危険性を考えるとなかなか推進できないようである。地元の小学生には工場でレンコンを詰める作業などの社会科見学が行われている。レンコンは「野菜の王様」といわれるほど単価あたりが高く、畑の一面積約 150 m²で数百万の価値はある。そのため、体験で使われたレンコンは売り物にならないことや集客性があるのかということを考えると果樹園の体験事業とは違い、難しい面があるようだ。レンコンは 10 ヶ月という長い期間収穫可能であるが、実際には春夏とレンコンの草が畑を生き茂り、その高さも考慮すると体験には向いてないのではとのご意見を頂いた。難しい面も多くあるが多くの需要と費用対効果での実現性が示すことが出来れば不可能ではなさそうである。レンコン農家では労働人口の高齢化が進んでおり、中国からの留学生を雇って家業を続けている現状もあるようだ。レンコンを使ったケーキもあり、更に知名度を上げることが求められているのではないかと感じた。

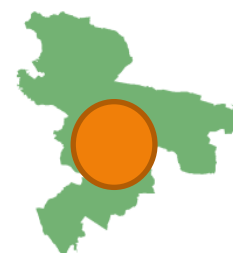


図 30 レンコン体験 1



図 31 レンコン体験 2

第4章 地区別構想



4-1. 中心地区

4-1-1. 現状

ヒアリング・フィールドワークからわかったこととして、中心市街地では交通機関も集積していて通勤や通学者が多いエリアである。しかし、商店の衰退化が見られ、商店街ではシャッター通りも存在する。これは郊外の大型ショッピングモールにお客さんを取られてしまっていることが理由として挙げられる。一方まちかど蔵や亀城公園など歴史的街並みも残っているので観光資源も存在する。

4-1-2. 課題

ヒアリングからわかった問題点として有料駐車場が挙げられる。中心市街地の駐車場がすべて有料であるためなかなか人が訪れなくなり、結果として大型ショッピングモールに人が流れてしまう。また、道が入り組んでいて交通渋滞が発生してしまうことも問題である。そして活かしきれていない自然資源が霞ヶ浦である。霞ヶ浦は市民の方々も何かしてほしいと思っているはあるものの具体的にどうしたいかという統一した意見もないため行政側もうまく方針を決めかねている。霞ヶ浦についての意見としてはまず夏場の異臭が住民にとって直近の問題であり、水質を改善しなければならない現状である。

4-1-3. まちづくりの方針

土浦の中心として交通利便性の向上や各種商店の活性化、行政機関の移転等を行なっていく以前の活気を取り戻していく。また、中心市街地の機能とともに住宅地として機能も継続して保っていく。霞ヶ浦や歴史的街並みはこの地区の資源として積極的に活用していくことが求められる。他地区とのつながりも今後のまちづくりに取り入れる必要がある。



図 32 土浦駅



図 33 亀城公園

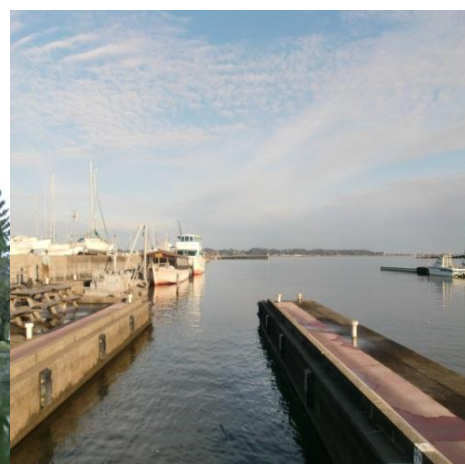
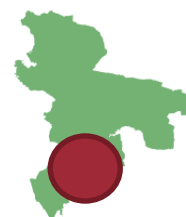


図 34 ラクスマリーナ

4-2. 荒川沖地区



4-2-1. 現状

土浦市の中では最も都心に近い場所に位置している荒川沖地区。また、阿見町や牛久市とも隣接している。そして常磐線が通っており、2009年に開業した「あみプレミアム・アウトレット」への直通バスの発着駅ともなっていることから、土浦市への玄関口といっても過言ではない。その一方で、駅周辺には日本一の広さを誇るジョイフル本田やMEGAドンキといった大型店舗が軒を連ねるとともに、郵便局や銀行、市役所の支所があり、かつ乙戸沼公園という大きな自然もある。そして町内会や市民活動が活発で生活には大変便利で住みやすい地区となっている。

4-2-2. 課題

2008年に発生した土浦市連続殺傷事件、通称荒川沖事件。この事件がきっかけで、荒川沖の防犯に対するイメージが大きく下がってしまった。住民も防犯に対する意識を高く持っており、イメージアップが早急に求められている。

また、以前走っていた土浦駅～荒川沖駅のバスが廃線となってしまったことから、荒川沖から中心市街地へのアクセスが大変不便になり、中心市街地への客足を遠ざける原因となっている。

4-2-3. まちづくりの方針

現状を見ると、生活利便性の高い地区であることが良く分かり、土浦市を訪れる人は一度は荒川沖を通ることになる。したがってこの地区では、土浦市を「住みやすいまち」と印象付けることをまちづくりの方針として掲げる。具体的な政策としては、住環境の整備及び公共交通の強化、町内会・市民活動が活発で住民同士のコミュニティがきちんと形成されていることのアピール等が挙げられる。

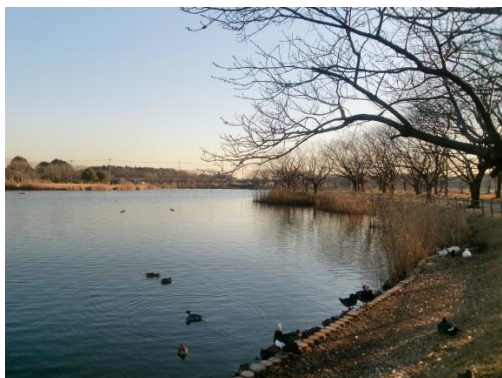
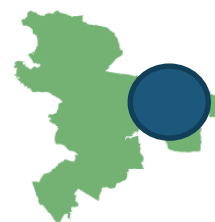


図 35 乙戸沼公園



図 36 荒川沖駅付近

4-3.神立・おおつの地区



4-3-1.現状

神立地区は工業の立地が目立ち日本を代表する工業団地であり、神立駅は土浦市の北の玄関口である。おおつ野では共同病院が移転し、神立駅の利用者が更に多くなるのではないかと考えられる。おおつ野地区では「おおつ野ニュータウン」の存在から人口流入と企業誘致、新たなコミュニティ形成が考えられる。また市内では唯一人口増加・非少子化の望まれるまちである。また、ハス田の数が多く、土浦市でも最大の出荷量を誇っている地区である。今回、私たちもレンコン堀り体験をさせていただいた。

4-3-2.課題

神立駅前では狭量な車道と交通混雑が目立つ印象。また駅前ロータリーが狭く、バス1，2台止まるのが精一杯という様子であった。そして神立の方には商店が多いものの、発展した地区を離れると商店の数が少なくなるのが問題である。新しい人々を呼び込むためにも、より一層の交通利便性の向上、および生活施設の充実が課題ではなかろうか。

4-3-3.まちづくりの方針

神立・おおつのは土浦市の中でも唯一人口が増加している地区である。ニュータウンの整備や協同病院の移転による新たな雇用の創出など、ポテンシャルの高さが伺える。よって職・住・商のまちというのをまちづくりの基本方針とする。概要としては

- ・各地区からのアクセス向上
- ・健康都市の推進
- ・病院を核としたまち

の三点を提示する。



図 37 神立駅前



図 38 レンコン畑

4-4.新治地区



4-4-1.現状

新治地区は 2006 年に土浦市に編入した地区であり、土浦市の中で自然が豊かな地区である。産業別に見てみると、農業に関しては田畑はもちろんのこと果樹園が多く、柿や栗、ぶどう、なし、いちごなどが栽培されている。南部に大型ショッピングセンターの「さん・あびお」があり、新治地区の住民は主にここで買い物をするようだ。実際に市では利用促進の取り組みを行っており、市の方からのお誘いもあり、私たちの班は新治バスの利用促進の PR に参加することが出来た。観光に関しては、この地区には観光名所が多数存在する。例えば、スカイスポーツを楽しむことが出来る朝日展望公園や、天然記念物の向上庵のしだれ桜、無形民俗文化財のからかさ万灯祭り、日本三大山王流鎗馬の流鎗馬祭りなどがあり、その他にも果樹園や寺社も多く存在している。

4-4-2.課題

果樹園が多数存在している一方で、経営者が減少傾向にあることが課題として挙げられる。また、商業施設が少なく、「さん・あびお」くらいしかない。高齢化の進む地区であるため、高齢者のための商業施設の設置や、公共交通の利便性の向上も今後の課題であろう。

4-4-3.まちづくりの方針

新治地区は自然が多く残っていることや伝統文化や観光名所が多く存在していることから、それらをさらに活かしつつ観光客を増やしていくことで地区の活性化を図る。高齢化問題もあり、地区の衰退が懸念されるので、農業においては農業体験などを通して、農業に関心を持ってもらうことで後継者問題解消のきっかけにして人口増加を図ったり、つくばエクスプレスの開通や朝日トンネルの開通によって周辺地域や首都圏からもアクセスが容易になったため、観光業において地域の活性化を図り、住みたくなるまちにしていける必要がある。



図 39 小町の里



図 40 清滝寺



図 41 東城寺

第5章 重点計画

「土浦を故郷と思えるようなまちへ」

5-1.はじめに

いったい、故郷とはどのようなまちのことをいうのだろうか。私たちは今回土浦市に住む人々だけでなく、外部に住む人々も視野に入れ、それぞれ「住民・観光客・元住民」と区分し、それぞれにとっての故郷とは何かを以下のように定義した。

住民：ずっと住み続けたいなるまち

観光客：また訪れたいなるまち

元住民：遠くにいても愛着を感じられるまち

この三区分に対し、ソフト面・ハード面の双方からのアプローチを考える。

5-2.概要

私たちは5つの「こきょう」を提案する。

コ強：コミュニティ強化

交強：交通利便性の向上

鼓興：観光の活性化による賑わいの創出

湖郷：誇りに思えるような霞ヶ浦へ

顧協：ふるさと納税の活用

この5つのこきょうがそれぞれに役割を担うとともに、相互に作用しあうことで土浦を故郷と思われるようなまちへと変えていく。

以下、各重点計画についての内容を述べる。



図 42 「こきょう」体系図

5-3. 内容

5-3-1. コ強

『故郷』と思えるようなまちとはどのようなまちのことをいうのだろうか。ここでは住民目線の『故郷』を考えたい。

住民目線の『故郷』とは、すなわち「住み続けたいくなるまち」のことだ。「住み続けたいくなるまち」の要素としては、住民同士のつながりが強いこと、世代間交流が行われ文化の伝承がなされていること、安心・安全に暮らせることなどが挙げられる。では、住民にこういったまちに思ってもらうためにはどうすべきか。全てを包括する施策として「コミュニティ強化」が掲げられる。コミュニティがきちんと形成されていれば、世代間交流を通し住民同士のつながりが強化され、かつ住民同士が顔見知りになれば防犯にもつながる。まして、災害が起きたときの共助も期待できる。

「住み続けたいくなるまち」＝「コミュニティ強化」＝「コ強」という重点計画について、ここでは述べていく。

【現状】

土浦市には現在、171もの町内会が存在している。そしてその町内会は11のブロックに分かれている。また、町内会の加入率が88.9%と、全国でも高い水準なのだ。また、土浦市では「わがまち活性化推進事業」として、町内住民により活発な活動がなされ、独自のまちづくりを行う町内会を毎年表彰している。つまり現在の土浦市において、コミュニティを形成する場はきちんと設けられていることになる。

しかし加入率が高い一方で、一人暮らしのご老人は中々参加しようとしてくれない、核家族化の進展に加え、価値観の多様化や個人主義、プライバシー意識の高まりなどにより若い世代の加入率が低いことが問題点として浮上しているのも事実だ。

そこで、まずは好事例を一つ取り上げた上でどうしてその町内会は上手く機能しているのかを分析した後、我々の提案をしていく。

【事例：中村四丁目町会】

＜中四鍋会＞ なかよしなべかい

荒川沖地区に位置している中村四丁目、その町内会において平成14年に結成された。結成されたきっかけは、町会役員が町内の班員や町内会の方々、子供達の顔が良く分からず、町会行事がスムーズに運営できなかったことにある。さらに、震災や有事の際にどうするのか、という懸念もあった。そうしたことから、毎年五月にこの「中四鍋会」を開催することを決定した。

この「中四鍋会」は、中村南の中、四丁目の四、鍋を囲んで食べるので鍋、町会員一同が会するので会、として命名された。活動内容は、有事を想定したけんちん汁うどんの炊き出し、町内防犯マップ・町内井戸マップを利用した防災・防犯に関する学習が大まかな

内容となる。この際、参加者全員がネームプレートをつけ、どの活動も大人から子供まで参加できるものとなっている。そして、防犯マップや井戸マップは、子供育成会の母親たちによって手作りされたものを使用している。

近年では、足腰が弱って一人で外に出ることの出来ない高齢者や昼間仕事で外出の難しい方々のお宅にけんちん汁を届ける、子供育成会を卒業し町内行事に消極的だった母親たちに若い人達とのパイプ役を担ってもらう「中四さくら会」を結成するといった活動も行っている。



図 43 防犯・井戸マップの学習



図 44 けんちん汁作り



図 45 皆でけんちん汁を食べる様子



図 46 大人も子供も会に参加

こうした活発な活動により、若い人々の参加も年々増加し、ひとりひとりの顔が見える町内会へと成長していき、他の町内会からの参加者や視察に来る町内会の方もいるそうだ。そして平成 18 年度には土浦市から「わがまち活性化推進事業褒賞」が与えられた。

私たちは、中四鍋会が成功した理由を把握するため、中村四丁目町内会の町長である小林様にお話をうかがうことが出来た。この時お話してくださったのが、とにかく始めてみることに、そして継続していくこと、新しいことを始めるためにはきちんとした体系作りが必要なことを話してくださった。土浦市の町内会では任期が短く、新しいことを始めたくても始められないような地区も少なくないそうだ。

この事例およびヒアリング結果を参考にしつつ、次のような提案をしたい。

【提案】

前述のとおり、土浦市には町内活動および市民活動の好事例が数多く存在している。町内活動が上手く機能していない町内においては、そういった事例をまず模倣してみる、あるいは取り入れられそうな要素を取り入れてみる、ということが必要なのではないだろうか。しかし、好事例があるとはいえ、その詳細な内容まで把握することは難しい。そこで、そういった好事例を

- ① 公民館に集約
- ② 他の公民館とその情報を共有
- ③ 公民館が持ち帰り住民(町内会長、自治会長等)に発信するという体系を提案する。



図 47 情報を公民館にて集約

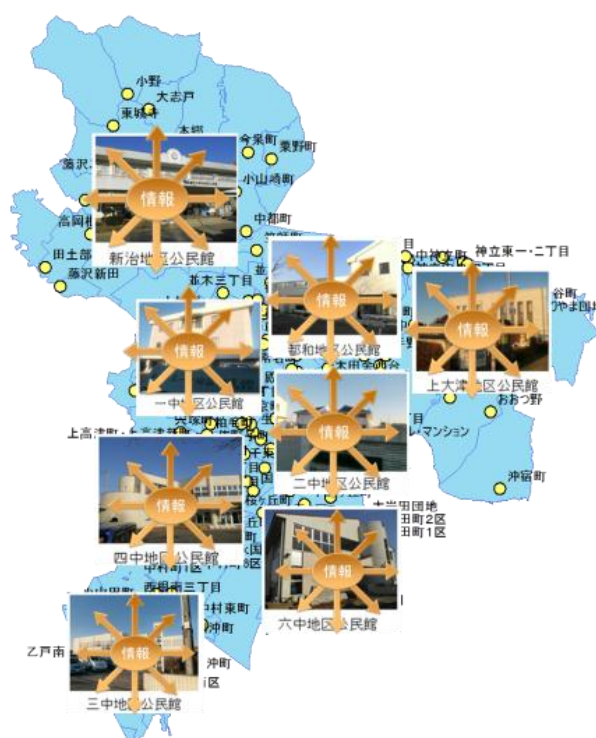


図 48 情報を公民館から住民へ発信

まず必要なのが、情報を集約させることだ。こういった活動がどのような町内会で行われているのか。その活動が上手く機能している要因は何か、必要なものや考え方は何かなど。その情報を集約させる場所を公民館にすることを提案したい。公民館ならば情報を共有するスペース(会議場所等)も十分なうえ、住民の利用も多く住民の声を聞くのにも適している。

そして公民館同士の情報の共有および公民館から住民への情報の伝達だ。共有・伝達の方法として、以下の4つを提案する。

- ① 各地区の公民館に全地区の広報誌を設置
- ② ホームページの作成

③ まちづくり市民会議の活用

④ 回覧板の充実

まず①に関して、現状は各公民館には自地区の広報誌と土浦市の発行する広報誌のみしか設置されていない。これを全地区の広報誌を設置することにより、他地区ではどのような活動が行われているのかを住民にも知ってもらう機会となる。

そして②だが、公民館での掲示や回覧板をまわすだけでは十分に情報が広まるとは言いきれない。イベントの開催を知らなかった、ということも有り得る。各公民館のホームページが作成され、情報が充実していれば、各々が思い立った時にいつでも情報の閲覧が可能であり、情報を見逃す可能性が低下すると考えられる。また、過去行われたイベントの写真を掲載したり、住民の声を投稿できるようなページも併せて設ければ、住民に寄り添ったホームページになるのではないだろうか。

③は公民館同士の情報共有の方法の一つとして提案する。現在もまちづくり市民会議というのは市役所で行われており、公民館館長同士で意見を交し合っているそうだ。その市民会議を、町内活動および市民活動の好事例の情報を共有していただく場としたい。

④だが、回覧板の充実は住民にとって必要な情報だけでなく、アート性の高いもので若い世代の人々の目を惹くものと変えていく。直近の情報はなるべく回覧板で得てもらうことを想定する。

【まとめ】

土浦市のコミュニティの現状は決して悪いものではない。しかし、様々な自然災害および犯罪が想定される昨今において、住民同士のつながりの強化は重要である。有事の際に助け合える体系作り、町内全員が顔見知りであるという安心感は、「住み続けたくなるまち」への第一歩になるのではないだろうか。

私たちはこの「コ強」を住民のソフト面を強化する重点計画として提案する。

表 4 コ強まとめ

	ソフト面	ハード面
住民	コ強	Coming soon...
観光客	Coming soon...	Coming soon...
元住民	Coming soon...	

5-3-2.交強

住み良いまちの条件として、公共交通の発展がある。土浦市は自家用車を移動手段としている住民が多いが、それは交通渋滞の原因にもつながる。また、中心市街地に無料の駐車場が無いことから、中心市街地を敬遠する声も多く聞かれた。

そこで、中心市街地への利便性の向上および公共交通の充実を図る提案を行う。

【市役所移転】

土浦市役所を現在の場所から JR 土浦駅北地区へ移転することを提案する。この場所は現在絞られている残り 3 つの候補地の中の 1 つでもある。市民の意見としては、下のグラフからも分かるように中心市街地や交通の利便性の高い地域への移転を望んでいる。

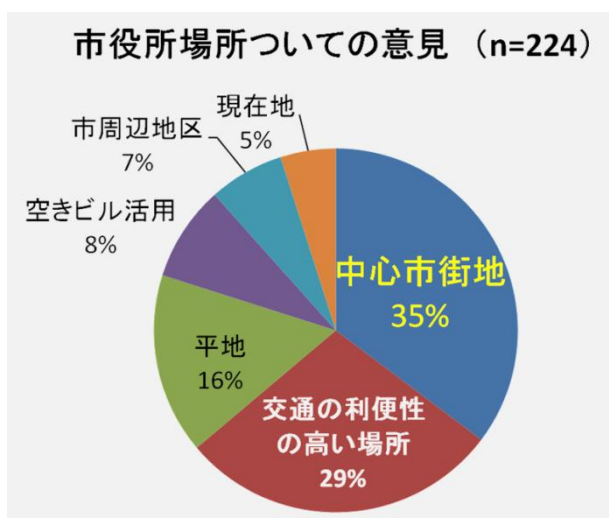


図 49 市役所場所についての意見

図 50 市役所移転場所



図 51 駅側から見た新市役所イメージ

市役所には駅から延長したペDESTリアンデッキを通す。さらに延伸させてモール 505 までペDESTリアンデッキを結ぶことで駅前の回遊性が高まり、中心市街地全体の活性化にも繋がる。



図 52 市役所移転イメージ

また市役所移転に伴って交通混雑の緩和も一緒に行うことを提案する。この際 JICA STRADA を用いて①市役所移転に伴う従業員数、訪問者数の変更、②高架道から市役所前に降りられる道路整備、③市役所前の道路の拡幅によって混雑を解消できた。

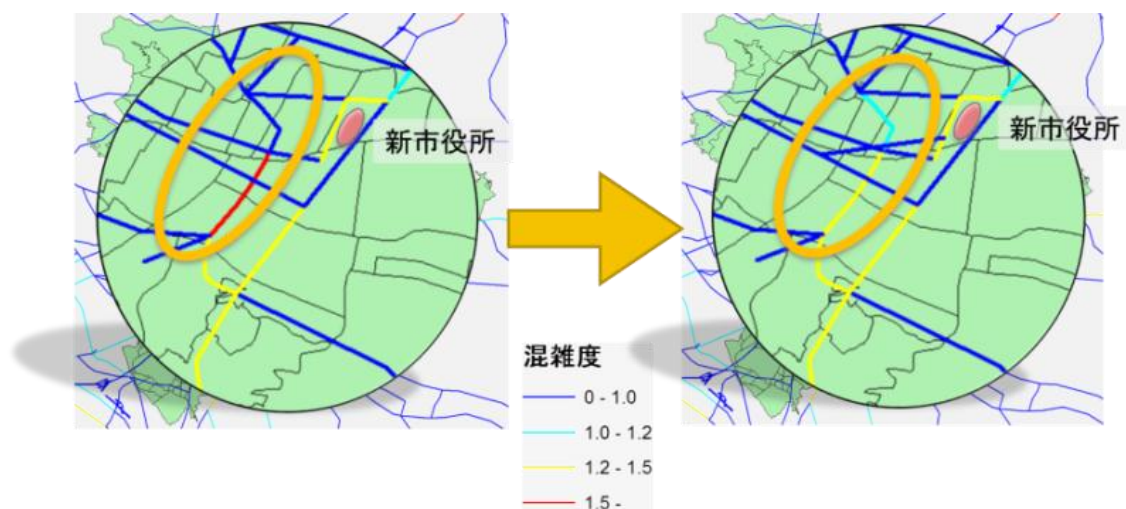


図 53 施策前

図 54 施策後

【無料バス】

ヒアリングから公共交通の充実を求める声を多く聞いた。特に高齢化が深刻化することが予想される土浦では高齢者にとって自家用車よりもバスなどの公共交通機関が発達している地域の方が望ましい。今は自家用車で十分であると感じている人もいるようだが、この問題には今から対策を立てる必要がある。また現在の土浦市の交通の問題点として中心市街地へのアクセスの悪さが挙げられる。また、バスが走っていても乗ってもらう文化・習慣がないこともバスが廃線となってしまう原因である。

これらを改善するために中心市街地と荒川沖、神立ーおおつ野、新治をループする無料バスを提案する。無料で走らすことでまずバスに乗ろうというモチベーションにつながる。実際に新治のコミュニティバスが期間限定で無料運行を行った際には通常の 3 倍の乗客があったという（市へのヒアリングより）。

このバスは、地域の企業やお店が「サポーター」となり、出資していただき、それを運営費として使用する。出資してもらったサポーターには特典があり、その特典は出資の額により異なる。今回は月に 5 万円出資していただいたサポーターにはバス停設置権利を、月に 1 万円出資していただいたサポーターには広告掲載権利を特典として設定する。他にも運行中にし資していただいた商店・店舗の PR を運行中に紹介するなどの特典も考えている。また、モール 505 や商店街では複数の店舗が協力して 1 つのバス停を設けることで 1 店舗あたりのコストがさらに抑えられる。

■運行の仕組み

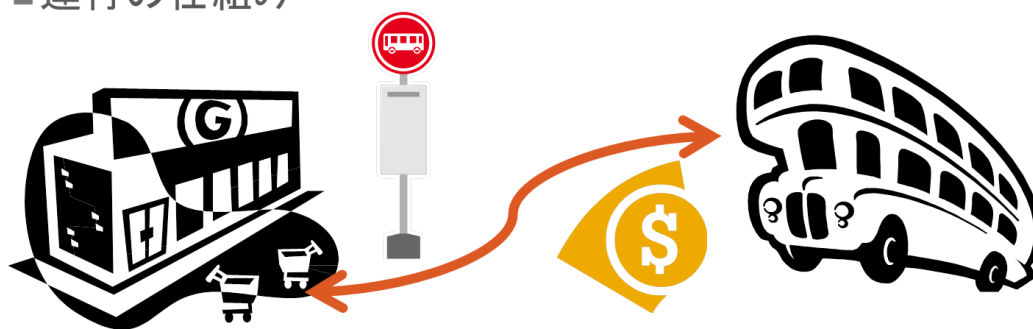


図 55 無料バスの仕組みイメージ図

現在、キララちゃんバスが住民の 3 割出資により運行されているという現状から、それ以上であれば運行可能であると市の側としては運行を行えるものと考ええる。以下、事業費用と出資店舗数による採算性の検証を行う。

次ページにあるように支出は約 6,950 万円/年、収入は約 2,800 万円/年となる。このとき収入/支出が約 3 割となるので、運行可能であると考えられる。支出と収入の詳細については、補足資料に掲載しておく。また次ページに示す図が想定バスルートであり、モール 505 の前にバスが通った場合のイメージも次に示しておく。

支出	収入
事業費内容 ・ 運行委託費 ・ 車両減価償却費 ・ 管理費	出資内容 ・ 5万円/月(バス停設置権利) × 35店舗
合計 約6,950万円/年	合計 約2,800万円/年

図 56 無料バス事業費用

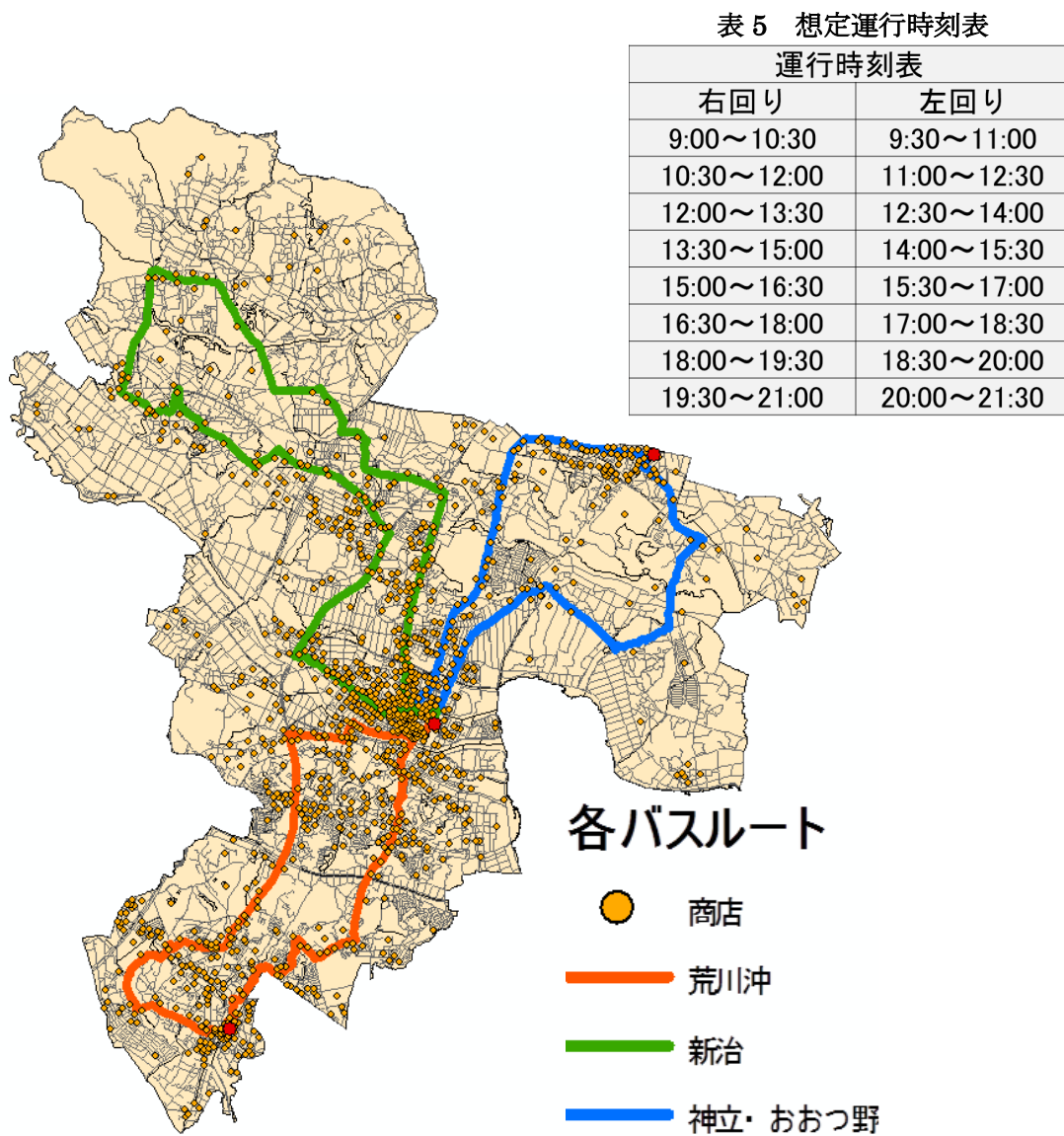


図 57 無料バスルート

3つのバスルート进行想定した。オレンジ色の○で示したものが土浦に存在する商店を示している。それぞれルートで商店が出資してバス停が置かれることを想定して商店の近くを多く通るルートを考えてみた。この1ルートあたり店舗が12～13件出資してもらうことで成り立つ計算である。それ以上の店舗が出資してくれることになればそれだけ収入が増し、これに1万円出資の広告掲載のサポーターが増加することでも収入に上乗せができる。



図 58 モール 505 付近イメージパース

モール 505 の交強の提案による活性化について述べる。市役所移転を行うことによって駅からモール 505 までの間に集客機関が設置される。駅、市役所、モール 505 をペデストリアンデッキで結ぶことで人の回遊性が高まる。また、無料バスのバス停がモール 505 の前に置かれれば、それを利用して市役所へ訪れる人も生まれ、必然的にモール 505 を通って市役所に足を運ぶことになる。商店の前を通過する人々が増えれば立ち寄る人も増えモール 505 のテナントとしてのメリットも大きくなる。その結果モール 505 にも活気が生まれると思われる。

ここでは、現市役所へバスで来る人の数を元にモール 505 の前を通る人の数を想定してみた。現在の市役所に1日訪れる人の数は約1360人である。そのうちバスで来る人の割合を元に計算すると45人であるが、新治のコミュニティバスの利用者が無料期間中に3倍に増えたことを考慮すると135人になる。さらに徒歩で来る人がバスを利用した場合をプラ

スして考えると、52 人がバスで来るようになる。そしてもし自動車利用者の 1 割が無料バスを利用するようになったと仮定した場合、118 人となる。したがって 305 人が無料バスを利用して市役所を訪れることになる。つまりモール 505 の前にもそれだけの人が通ることになる。おそらくこれは少し強引な計算だが、無料バスや市役所移転に伴って多くの人がモール 505 方面に流れてくる可能性はあるのではないかな。

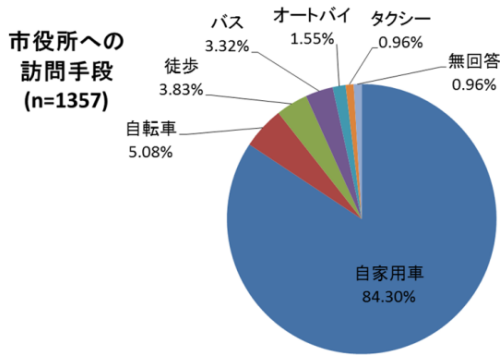


図 59 市役所への訪問手段

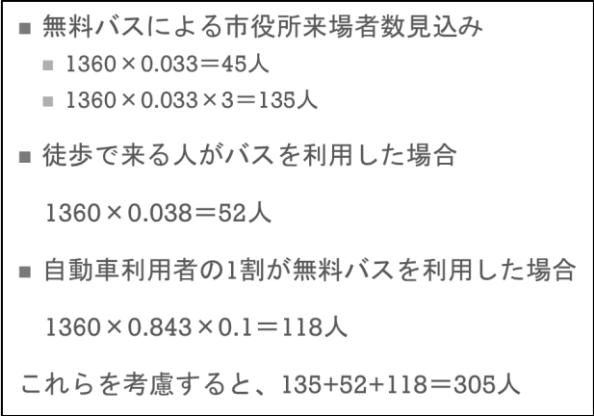


図 60 無料バスによる市役所来場者数見込み

参考：第 1 回土浦市庁舎建設審議会資料Ⅳ－1 庁舎に関するアンケート結果



図 61 市役所とモール 505 を結ぶペデストリアンデッキのイメージ

これで交通の重点計画は以上である。これらの交通に関する交強の提案は住民のハード面に対する提案である。

表 6 交強まとめ

	ソフト面	ハード面
住民	コ強	交強 市役所移転と交通整備 無料バスの運行
観光客	Coming soon...	Coming soon...
元住民	Coming soon...	

5-3-3. 鼓興

「交強」で挙げられた無料バスの提案は、各地区の住民が無料バスを利用して中心市街地を訪れることでの中心市街地の活性化を図るものである。この「呼興」では先ほどの無料バスを利用して、観光客を中心市街地から各地区に呼び込むことで、各地区に既にある観光資源をアピールし、「また訪れたくなるまち」を提唱する。以下に集客力の増加のための提案を挙げる。

【提案① 農業体験】

今までの観光客のニーズは風景や作品などきれいなものを見ることで癒しを受けていたが、近年では体験や交流を目的とした観光客が増加しており、「レジャー白書 2008」によると市民農園等に参加を希望する人口は 820 万人と推定しており、このような体験や交流を主とした観光は主要な観光業になりつつある。さらに、都市住民の農業体験に関する意識調査において「自分自身体験的なものであれば、田や畑などで農作業をしてみたい」と回答した人の割合は平成 2 年では 45.5%であったのに対し、平成 11 年度には 63.0%と 17.5%も上昇しており、今後においても上昇すると考えられる。

表 7 出典：博報堂生活総合研究所「食と農業に関する意識調査」

○都市住民の農業体験・農村交流・市民農園に関する意識

単位：%

調 査 項 目	H 2 ①	H11 ②	②－①
自分の家や近くの市民農園などで家庭菜園をしてみたい	59.5	63.3	+ 3.8
自分自身体験的なものであれば、田や畑などで農作業をしてみたい	45.5	63.0	+17.5
もっと気軽に農家の手伝い(後継)ができれば協力したい	45.0	57.0	+12.0
自分の子供や孫達には、農作業を体験させたい ※	—	81.3	—
もっと気軽に農村と行き来がしたい	54.0	68.5	+14.5
もっと気軽に農家の人たちと交流を持ちたい ※	—	72.8	—

そこで、土浦市はれんこんの生産量が日本一であることから、特に生産が盛んなおおつ野地区で農業体験として、れんこんの収穫体験を提案する。提案するにあたって、実際にれんこん掘り体験を行った。この体験によって、れんこん掘りの楽しさを肌で感じる事ができ、この体験は、都市部の若者においても魅力ある体験になるであろう。以下にれんこん掘り体験の写真を載せる。



図 62 れんこん掘り体験

具体的には農協さんが仲介役となり、農家の方から耕作放棄地を借り、その土地を農業体験として活用する。耕作放棄地の再生にあたってかかるコストは耕作放棄地再生利用交付金を活用することですべてではないがまかなうことができ、この提案は耕作放棄地の解消に繋がる。さらに、れんこん農家にとっては後継者不足という問題が存在するが、農業体験者が体験を通して農業へ関心を持つことで、この問題の解消のきっかけになるであろう。また、農業体験者にとっては自然の中で体験することで日頃の疲れを癒すいい機会となるであろう。

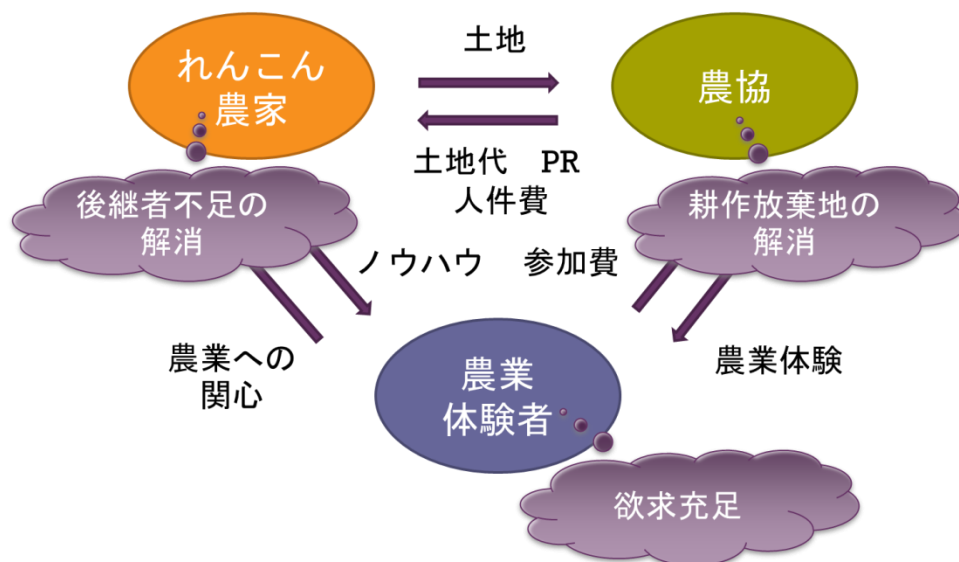


図 63 農業体験相関図

また、レンコンの収穫期間は 8 月から翌年の 5 月と長いため、多くの観光客を見込むことが出来る。この農業体験は今までの長期的な滞在ではなく、比較的短期間の滞在であること、また土浦市は都心に近い（上野から土浦まで最短 42 分）ことから都心で働く若者をターゲットとした。この提案の採算性を示すために、先ほどの相関図を基に以下に示す。

表 8 農業体験採算性の検証

1反歩(約10a)の貸付時				
<収入 B>	参加料	1月あたり	年間	
	3,000円	20人	42万円	
<支出 C>	貸付料	肥料代	人件費	合計
	5万円	10万円	14万円	29万円
< B / C >	1.45			

1反歩の場合で検証した結果、費用便益が1.45となったため、採算性があることがいえる。また、1反歩の利益は少ないが、耕作放棄地を広く農業体験の場として再生させることで利益増加が見込まれる。

【提案② ウォークガイド】

各地区の公民館へのヒアリングより土浦市には行事等に積極的に参加する元気な高齢者が多くいることがわかった。さらに、新治地区には有名な寺社があり、中心市街地周辺には歴史的な街並みが形成されているなど観光資源になりうる場所が多々ある。例えば、新治地区にある清滝寺は坂東三十三観音の一ヶ所に選定されており、団塊の世代を中心に観光スポットとなっている。そこで、時間と経済的余裕のある団塊の世代をターゲットとし、集客する。現在、土浦市では「土浦まち歩きガイドマップ」を作成しており、各地区の街並みを知ることが出来る。しかし、観光客にとってまちを歩いただけでは魅力を持ってもらうことが難しいと考えられる。そこで、土地勘のあるアクティブシニアによるウォークガイドを行うことでより、土浦に魅力を持ってもらえるはずである。以下にウォークガイドのコース例を示す。

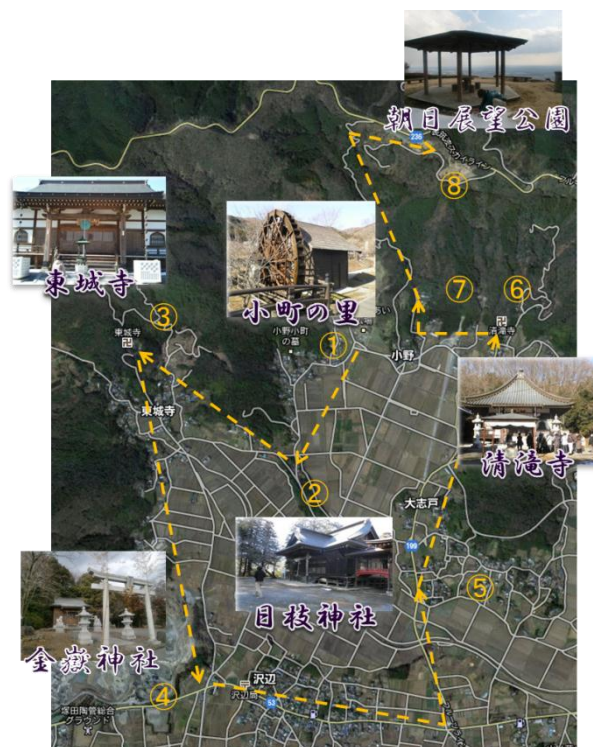


図 64 ウォークガイド例（新治地区）

このウォークガイドは新たな雇用を創出し、住民はウォークガイドを通して自分たちの暮らすまちに誇りを持つことが出来るだろう。また、観光客にとっては新たな魅力を発見することで、また訪れたいくなるまちになるだろう。

呼興のこれらの提案は住民と観光客のソフト面をカバーすることが出来る。

表 9 呼興まとめ

	ソフト面	ハード面
住民	呼興	交強
観光客	呼興	Coming soon...
元住民	Coming soon...	

5-3-4.湖郷

現在霞ヶ浦では環境保全・異臭問題の解決が求められる現状がある一方で、霞ヶ浦の資源を活かして欲しい・きれいにしたいという声が上げられている。ヒアリングより夏場アオコによる異臭が気になる、環境の改善、霞ヶ浦を活かして欲しいというご意見も頂いた。また、住民の多くは水質改善に努めて欲しいとの意向がありそれを行政にも求めているようだ。しかし、汚水の主な原因は家庭排水が多く、住民にも水質の汚濁に責任があり、これを理解していただかなければ解決につながらない現状である。また、霞ヶ浦には中小 56 河川が流入しており、霞ヶ浦だけではなく、この河川にも目を向けて親水事業に取り組まなくてはならないのではないかと考えた。そこで私たちは霞ヶ浦への関心・意識向上を高めてから水質改善につなげようとの提案をしようと考えた。

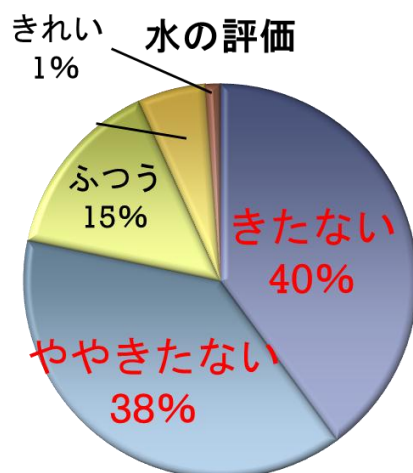


図 65 霞ヶ浦を将来どうすればよいか
『霞ヶ浦の環境と水辺の暮らしーパートナーシップ的发展論の可能性ー』より

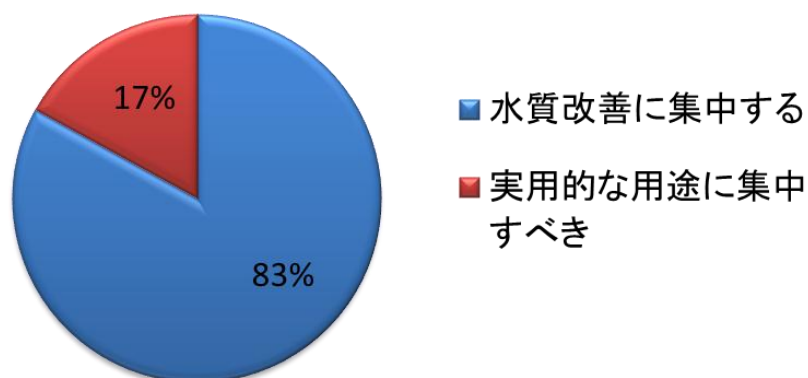


図 66 行政施策としてどちらを支援するか
『霞ヶ浦の環境と水辺の暮らしーパートナーシップ的发展論の可能性ー』より

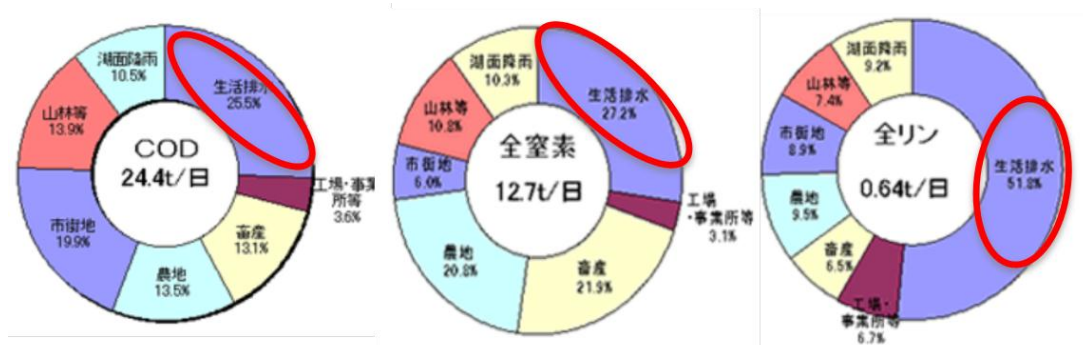


図 67 霞ヶ浦の主な汚水原因

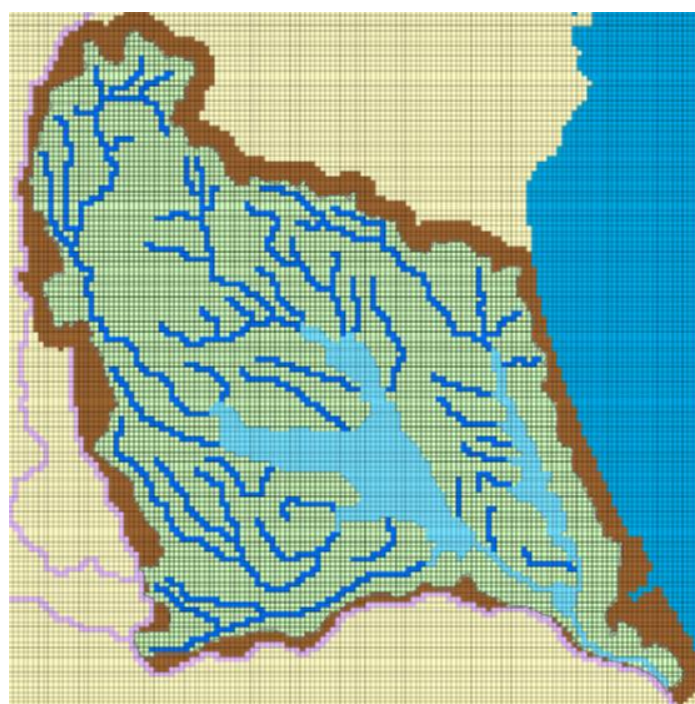


図 68 霞ヶ浦への流入 56 河川の図

【提案①：周辺整備】

それらを解決するために私たちはまず、霞ヶ浦の魅力を向上させ、それから水質改善へつなげる提案をする。魅力向上の提案として、霞ヶ浦の周辺の整備を行い、湖上の花火大会を実施する。まず、霞ヶ浦の周辺整備ではデッキ整備とライトアップを行い、市民・観光客にとって来て楽しめる環境を造り、恒常的に来てもらおうという狙いがある。場所は比較的整備しやすいと思われる場所を選定した。



図 69 整備計画場所

表 10 整備費用概要

項目	金額（万円）
デッキ整備	44,240
L E D照明整備	40
人件費	120
維持管理費	100
総費用（現在価値）C	44,500



図 70 霞ヶ浦周辺整備イメージパース

【提案②：湖上花火大会】

次に霞ヶ浦での花火大会開催である。以前は霞ヶ浦であげられていた経緯があるが、住宅地増加・安全距離などの問題から現在は桜川沿いで行われている。

土浦「キララまつり」20周年記念の前夜祭として霞ヶ浦湖上で花火大会が行われた。(2010年)その際にはラクスマリーナから屋形船も出港していた。

茨城県行方市でも震災復興をテーマに霞ヶ浦湖上花火を行っていた。(2011年)



図 71 花火大会での屋形船運行

http://pub.ne.jp/kasumigaura/?entry_id=3099677



図 72 行方で行われた霞ヶ浦湖上花火大会

http://www.nameshoko.com/maturi_ibento/sanseto/2011/2011_sunset_poster.jpg

しかし、湖上での開催は駅が近く交通の便もよいため、最も観光客数を見込める花火大会で更なる観光客の入り込みが期待できる。霞ヶ浦周辺住民・観光客に対して霞ヶ浦に関心を持ってもらう目的を持つ。現在花火大会の費用は約 2 億円であり、その 1/3 を栈敷席の収入によって賄っている。なお栈敷席は毎年 10 倍の倍率である。湖上に移すことによって栈敷席をより広く確保することが可能になる。

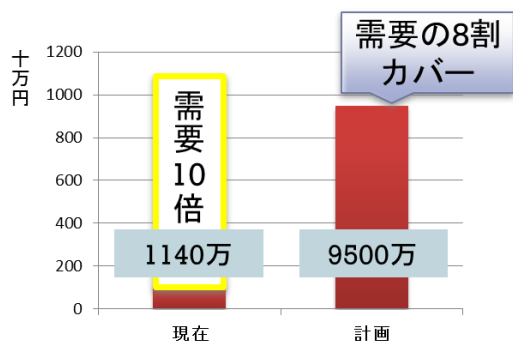


図 73 栈敷席の収入

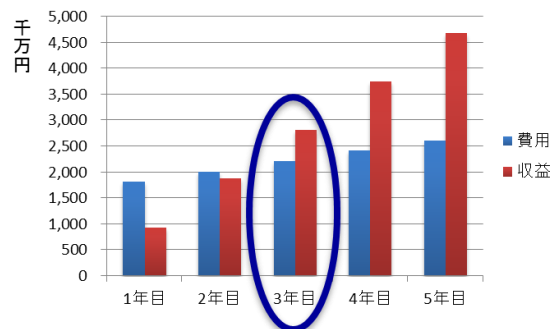


図 74 累積経常収支

花火大会の費用の概算は以下の通りである。

■ 花火大会の費用

- 2 億円/年 (うち 1/3 を現在は収益でまかなっている)

■ 事業費用

- 栈敷席のための整備 $77,400 \text{ m}^2 \times 10,000 \text{ 円} = 7 \text{ 億 } 7400 \text{ 万円}$

$$3960 \text{ m}^2 \times 10,000 \text{ 円} = 3960 \text{ 万円}$$

$$61,300 \text{ m}^2 \times 10,000 \text{ 円} = 6 \text{ 億 } 1300 \text{ 万円}$$

$$\text{湖上打ち上げ台初期費用} \quad 1 \text{ 億円(見込み)}$$

- 湖上打ち上げ台設置費用 1800 万円/年

- 合計 $7 \text{ 億 } 7400 \text{ 万円} + 3960 \text{ 万円} + 6 \text{ 億 } 8100 \text{ 万円} = 14 \text{ 億 } 9460 \text{ 万円}$

■ 便益

- 栈敷席 6 名用が $1.7\text{m} \times 1.7\text{m} = 2.89 \text{ m}^2$

- 見込み購買者数 $36000 \text{ 人} \times 10 \text{ 倍 (例年の倍率)} = 36 \text{ 万人}$

- 霞ヶ浦周辺で確保できる栈敷席 $142,660 \text{ m}^2 \div 2.89 \text{ m}^2 = 49,363 \text{ 席}$

- $49,363 \text{ 席} \times 6 \text{ 名} = 29 \text{ 万 } 6078 \text{ 人}$ $29 \text{ 万 } 6078 \div 36 \text{ 万} = 0.822$ 需要の 80% 以上

- 収入 $49,363 \times 19,000 \text{ 円 (2011 年度栈敷席料金)} = 9 \text{ 億 } 3790 \text{ 万円}$

■ 3 年後の収益

- $(9 \text{ 億 } 3790 \text{ 万} \times 3) - (14 \text{ 億 } 9460 \text{ 万円} + 2 \text{ 億円} \times 3 + 1800 \text{ 万円} \times 3 + 1 \text{ 億円})$
= +5 億 651 万円

- つまり 3 年で元が取れる

- その後は 1 年で約 7 億円の利益が見込める



図 75 霞ヶ浦湖上花火大会イメージパース

以上のように霞ヶ浦に関心をもってもらうよう計画し、水質向上に努める。ここでは既存の霞ヶ浦学習プログラムやNPOによる親水活動を拡張し、土浦がリーダーとなって霞ヶ浦の水質向上に貢献していく。学習プログラムは霞ヶ浦環境科学センターですばらしい活動が行われており、小学生だけではなく、幅広い世代に親しむことのできる事業である。これは子供たちが学習することでその家庭に学習したことを広める効果が考えられる。またNPOでは『桜川探検隊』など河川での親水活動も多く行われており、これを拡充し、更に様々に行われる親水活動との連携させていくことが求められている。またこの活動や浄水場の設置に花火大会等の収益を利用し、かかわりを持たせ問題を解決していく。

表 11 湖郷まとめ

	ソフト面	ハード面
住民	コ強 呼興 湖郷 霞ヶ浦湖上花火 周辺整備	交強 湖郷 霞ヶ浦流域水質浄化
観光客	呼興	湖郷 霞ヶ浦湖上花火 周辺整備
元住民	Coming soon...	

湖郷は、表 11 のように住民のソフト面では霞ヶ浦湖上花火計画と周辺整備、ハード面では霞ヶ浦流域水質浄化計画によりカバーし、さらに観光客のハード面では霞ヶ浦湖上花火計画と周辺整備によってカバーする。まず、住民や観光客に霞ヶ浦という存在に興味を持っていただき、霞ヶ浦を訪れてもらう。きれいに整備してありライトアップされていれば霞ヶ浦の人の入り込みは期待できる。更に湖上での花火大会移転で多くの人を呼び込む。そこで霞ヶ浦の現状を知っていただき、霞ヶ浦環境科学センターで実施されている学習プログラムや親水活動を利用していただき、水質改善に努めていく。

5-3-5. 顧協

この「顧協」では、主に土浦に住んでいない人々を対象とする。ウォークガイドや農業体験、各種既存のイベント等に参加した人々に土浦に愛着を持ってもらい、土浦を顧みた時、土浦に寄付という形で協力してもらおうというのが目的である。

そこで注目したのが「ふるさと納税制度」だ。これは、全国的に平成 20 年度より開始された制度である。寄付した金額分の個人住民税、所得税が限度額は設けられているものの、控除されるという仕組みになっている。

土浦市でももちろん寄付することができる。市町村ごとにふるさと納税の名前も異なっており、土浦の場合には「ふるさと土浦応援寄付」と名付けられている。まず、ふるさと納税が開始されてからの 3 年間の土浦市への納税者数と納税額を見してみる。すると、表 1 にあるように納税者、納税額ともに減少傾向にある。これは、他の地域でも同様の傾向にあるようで、認知度の低さも原因としてあるようだ。

表 12 土浦市のふるさと納税の納税者数及び納税額の変移

年度	納税者数 (人)	納税額(円)	一人当たりの 納税額(円)
平成20年度	18	2,630,000	146,111
平成21年度	13	2,396,000	184,307
平成22年度	9	1,967,000	218,555

寄付には 4 つのプランが用意されていて納税者が希望のプランに納税することができる点が優れている。土浦の場合には「つ・ち・う・ら」の文字になぞらえた以下の 4 つのプランがある。それぞれのプランに寄付の使い道が提示されており、一人一人の声を反映できる点が特徴的である。

つどい、かたらい、はぐくむ みんな いきいきプラン
ちいきのきらりと光る資源を最大限に活用する にぎわい きらきらプラン
うまれて暮らせる幸せをだれもが実感できる あんしん・あんぜんプラン
らしさを生かし、市民が自信と誇りを持てる オンリーワンプラン

土浦市市長公室政策企画課へメールでのヒアリングを行ったところ、次のような問題点

があることが分かった。一つ目はお礼の品の不足、もう一つは PR 不足による認知度の低さであった。一方、ふるさと納税の可能性を感じさせる内容について、これまでの納税者の中にかすみがうらマラソンに参加した方がいたことがヒアリングにより判明した。また普段は寄付金の使い道については納税者が選べるが、今回の震災被害があったような場合には、臨機応変に復興のための資金にも回すことができるなど、汎用性の高い使い方ができるのも魅力的である。

下の図からわかるように平成 21 年度と平成 22 年度では寄付金の使われ方が大きく異なる。平成 21 年は 4 つプランにしっかり利用されているのに対して、平成 22 年度は寄付金のうち約半分を災害復旧事業に注ぎ込まれていることがわかる。

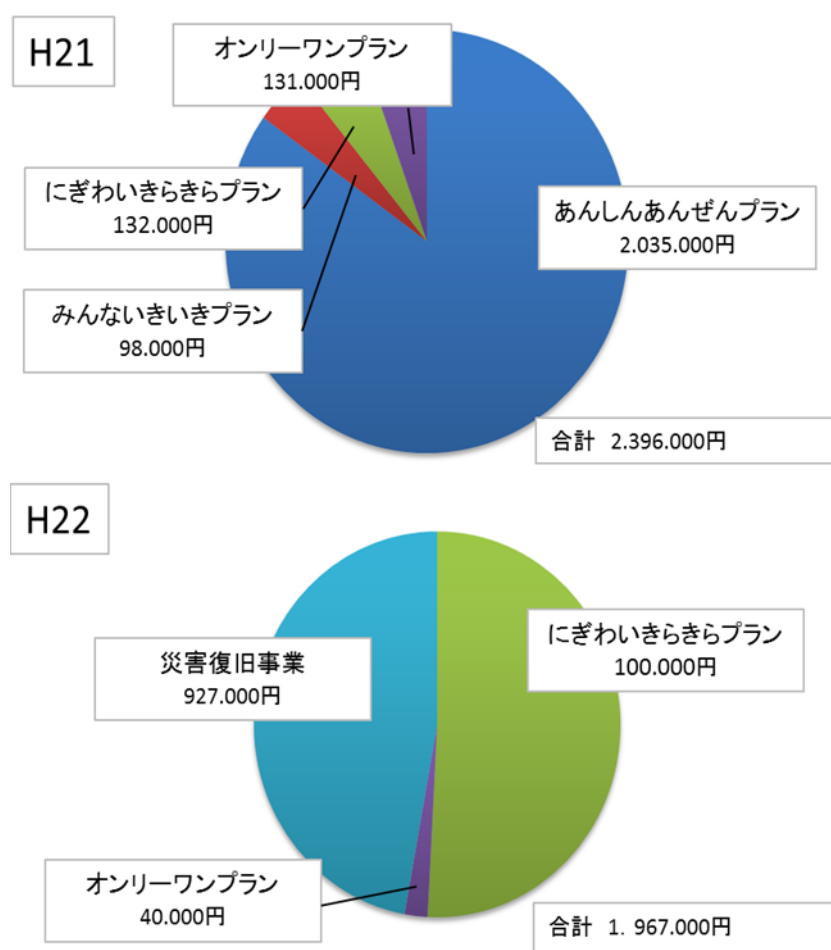


図 76 ふるさと納税の震災対応例

ふるさと納税の成功事例として、茨城県の中で特徴的なのは、大子町、阿見町の事例である。平成 20 年度の納税金額の表 13 を見てみると土浦市は 435 万円であるのに対し、大子町は 1 億円、阿見町は 1875 万円と非常に高額な寄付を集めている。大子町は地元菓子製造販売会社「リスカ」の社長による 1 億円の大口寄付があり、阿見町は 1352 人からの寄付

が集まった。阿見町がこれだけ多くの納税者を集められたのは、予科練平和記念館を建てるための寄付として予科練関係者やその家族などからの寄付を得ることができたためである。

表 13 茨城県の納税額

市町村名	件数	金額	市町村名	件数	金額
1 大子町	13	101,205,000	23 鹿嶋市	1	500,000
2 阿見町	1,352	18,752,715	24 つくば市	13	471,650
3 古河市	13	16,600,000	25 結城市	3	310,000
4 筑西市	19	15,955,500	26 潮来市	10	285,000
5 水戸市	35	14,994,110	27 高萩市	3	262,000
6 那珂市	8	14,240,000	28 坂東市	6	243,501
7 取手市	24	11,030,000	29 守谷市	10	220,000
8 小美玉市	4	10,230,000	30 利根町	6	210,000
9 五霞町	2	6,005,000	31 桜川市	3	185,000
10 牛久市	28	5,699,389	32 河内町	18	169,000
11 日立市	49	4,827,442	33 行方市	8	167,834
12 土浦市	22	4,350,000	34 北茨城市	2	135,000
13 稲敷市	2	3,202,729	35 石岡市	5	120,000
14 八千代町	2	3,100,000	36 常陸大宮市	3	120,000
15 笠間市	25	2,860,000	37 常総市	1	100,000
16 常陸太田市	29	2,650,000	38 城里町	2	98,114
17 下妻市	19	2,580,000	39 境町	2	80,000
18 大洗町	61	1,767,000	40 茨城町	2	25,000
19 かすみがうら市	4	1,244,000	41 神栖市	0	0
20 つくばみらい市	9	1,155,339	42 鉾田市	0	0
21 龍ヶ崎市	22	721,937	43 東海村	0	0
22 ひたちなか市	11	507,000	44 美浦村	0	0
茨城県合計		1,851	247,379,260		

参考 : <http://blog.hitachi-net.jp/archives/50857185.html>

この「ふるさと土浦応援寄付」を活かした提案を考える。まず認知度を上げるため、土浦に多くの人が訪れるイベントで PR することが重要である。そこで、かすみがうらマラソ

ンに参加者した人が納税しているという事例に着目し、かすみがうらマラソンにて参加者や見学者に配布するペットボトルのラベルで PR することを提案する。他にも土浦に 70 万人の観光客が訪れる花火大会やきらら祭りなどの際に配るうちわでも PR することで、多くの人を対象にふるさと納税を知ってもらえる。



図 77 ふるさと納税に関する広告例

もう一つの提案は寄付のプランを分かりやすく変更することである。阿見町の事例から分かるように、納税者に対して何に寄付しているのか分かることが重要である。そこで、今ある「つ・ち・う・ら」になぞらえた 4 つのプランから具体的に私たちがこれまで提案した霞ヶ浦の浄化や土浦湖上花火大会、農業体験、無料バスなど何にお金が使われるのか明確にすることが寄付しようと考えている人にとっては分かりやすい。

他にも大子町の事例から土浦にある企業の方々からの大口寄付確保のための PR を進めていく必要がある。1 億円の寄付をしたリスカの売上は 100 億円であったことを考えると土浦にも売上の高い企業が存在するのでそういったところにも地元へ貢献してもらうことが求められる。

ヒアリングと調査からわかったことの中に土浦では、納税者に対して礼状の送付と市の

広報誌の送付を行っているだけであったが、他の地域では特産物や観光地の割引券の特典を用意しているところがある。提案として土浦でもこのような特典を設けたほうがよいのか検証してみた。

平成 20 年度の茨城県の納税額を被説明変数にとり、一人当たりの納税額と納税件数、特典の有無（ダミー）を説明変数として回帰分析を行ったところ以下のような推定式が得られた。

$$\begin{aligned} (\text{納税額}) = & 10.72 \text{ 円} \times \text{【一人当たりの納税額】} (13.13) *** \\ & + 15425.38 \text{ 円} \times \text{【件数】} (2.93) *** \\ & + 729169.42 \text{ 円} \times \text{【特産品ダミー】} (0.34) \\ & - 1196106.71 \text{ 円} \text{【切片】} (-0.75) \end{aligned}$$

*** : 1%で有意 (t値)

サンプル数 : 44 $R^2=0.82$ $R'^2=0.81$

この結果から、納税額にとって一人当たりの納税額や件数はもちろん有意であったが、特産品の特典を設けているがどうかということが納税額の増加の要因であるとはいえないことがわかった。今回は土浦に納税していただいた方々へのお礼の品の設定に関する提案に関しては見送ることとした。しかし、何らかの特典を設けることは納税者に対して感謝を示す意味と寄付のリピーターを増やすという点では必要なことであると思う。

例) A. 霞ヶ浦の浄化 B. 土浦花火大会資金
C. 農業体験資金 D. ウォークガイド資金
E. 無料バス資金 F. おまかせ

図 78 分かりにくい寄付のプランの変更例

表 14 土浦にある企業の方々からの大口寄付の確保のための P R

順位	企業名	売上高
1	宇田川石油	171億円
2	中川商事	114億円
3	日立テクノロジーアンドサービス	80億円
4	中川ヒューム管工業	74億円
5	ブロード	52億円

リスカの
売上
100億円

茨城県の企業ランキングより

ふるさと納税はまだ始まったばかりの制度である。早い段階で納税者を集められた市町村が財源を確保できる可能性を秘めているのでぜひ取り組むべきである。また、これまでの提案で土浦へ訪れた人にいかに愛着を持ってもらえたかが形としてわかるのがこの顧協の提案である。

これは、住民に対する提案ではなく元住民のソフト面とハード面に対する提案である。

表 15 顧協まとめ

	ソフト面	ハード面
住民	コ強 呼興 湖郷	交強 湖郷
観光客	呼興	湖郷
元住民	顧協	ふるさと納税 の活用

5-4.まとめ

5つの故郷を住民・観光客・元住民の視点でソフト面とハード面に満遍なく提案し、これらの提案が土浦市を住民・観光客・元住民が故郷と思えるようにできると考える。

表 16 故郷のまとめ

	ソフト面	ハード面
住民	コ強 呼興 湖郷	交強 湖郷
観光客	呼興	湖郷
元住民	顧協	

次にそれぞれの“こきょう”を地区別に考えていきたいと思う。各提案を中心地区と、荒川沖地区、神立・おおつの地区、新治地区にあてはめると次ページの図のようになる。これで各地域にさまざまな“こきょう”の要素が散りばめられていることがわかる。また土浦の外からも「呼興」の観光客や「顧協」のふるさと納税などで土浦に関わってくるという形を想定している。そして各地域間のつながりの役割を果たすのが「交強」の無料バスである。これは中心地区と他の3つの地区を結ぶもので各地域とのつながりを生む。

また、次に各“こきょう”の提案同士の関係性について述べる。コミュニティ強化の「コ強」は町内会での活動や連携の波及、そして公民館との繋がりを強くしていくものである。これは住民同士の提案ではあるが、町内で行う活動の中で霞ヶ浦や河川の清掃活動を広めていくことができれば「湖郷」の提案に繋がっていく。

「湖郷」の提案では霞ヶ浦での湖上花火を提案した。これは話題性も高く観光客の増加につながり「呼興」とともに土浦を観光面で活性化させることに繋がる。交通を強化する「交強」では無料バスの運行を提案しているがこれは住民にとっての利便性だけでなく、観光客に対しても中心市街地からそれぞれの地区に観光に行くために一役買うことができる。れんこん掘り体験やウォークガイドなどとも連携して活用したい。そして花火大会や水質浄化、レンコン体験、無料バス運行などのさまざまな提案に対してふるさと納税で寄付を集めることで「顧協」が他の3つの「こきょう」の提案のサポート役として作用する。

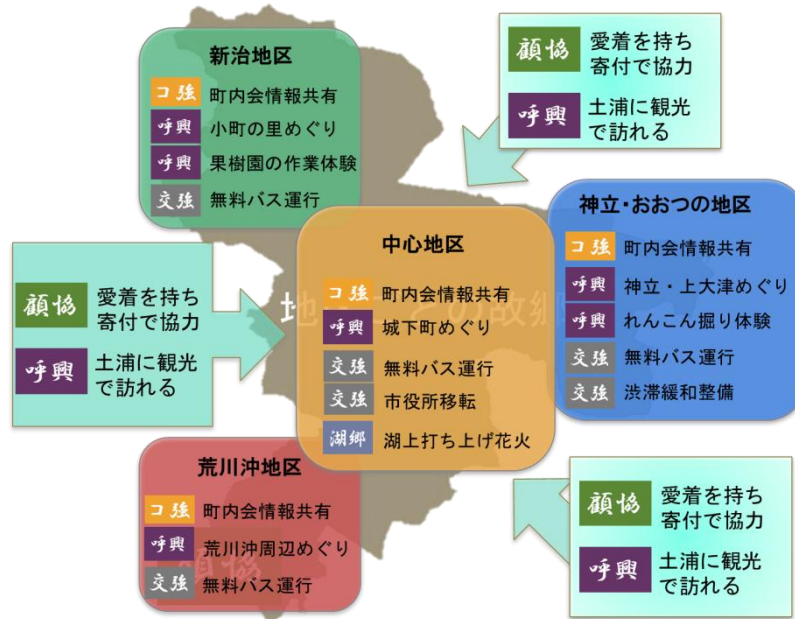


図 78 各地域とこきょう

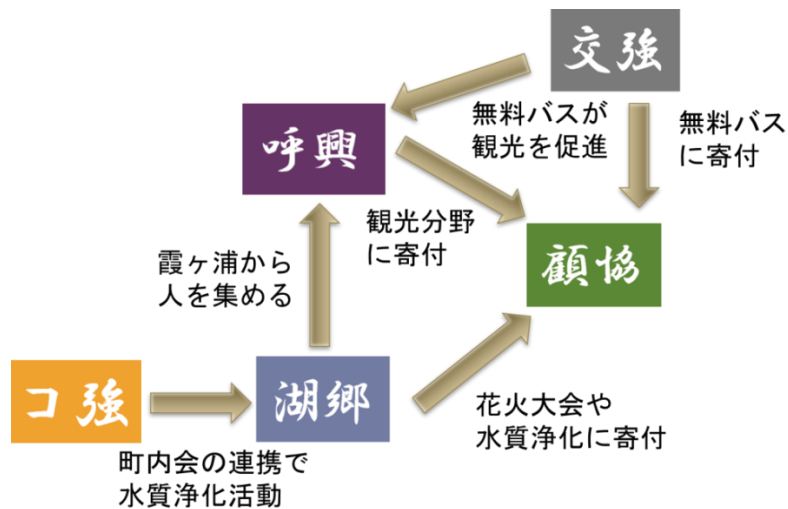


図 79 各提案どうしの関わり

最後に周辺地域との関わりについてまとめる。湖郷では、土浦市が霞ヶ浦流域の中心となって霞ヶ浦の水質向上の政策を広く波及していく。呼興では、れんこん掘り体験やウォークガイドといった観光事業で首都圏からの人の流れを土浦に向ける。そして、顧郷ではいまだに全国的にも認知度の低い「ふるさと納税制度」をうまく土浦に活かしていこうという提案である。土浦が全国の人々から愛着を持ってもらえるようになればたくさんの寄付を集めることができ、よりいっそう土浦の魅力を高められる政策も行えるようになる。こうして土浦はさまざまな立場の人々にとって故郷と思われるまちとなることができるはずである。

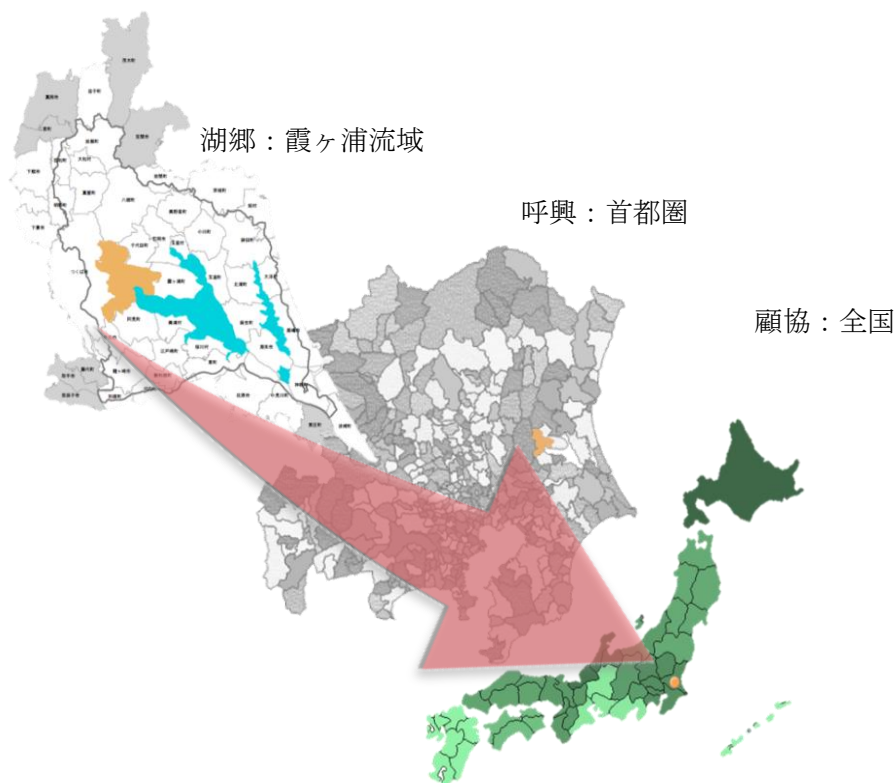


図 80 周辺地域との関わり

これまでの5つの「こきょう」の提案を通して、私たちは土浦市の人口フレームを図 81 のように設定する。今後の日本において少子高齢化、人口減少は免れないと考えられる。その中で、土浦市は日本全体の人口減少よりも緩やかな現象を辿るような人口フレームを提案する。ここでの数値は各年度の人口÷2005年度の人口としている。30年後の将来人口を約12万4000人と設定した。

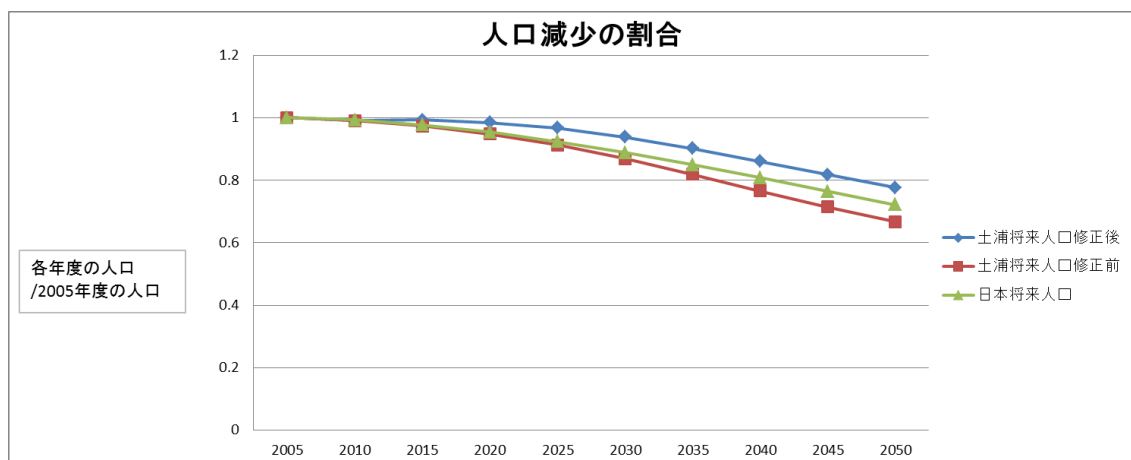


図 81 人口現状の割合

第6章 補足

6-1.交強補足

6-1-1.市役所移転

現土浦市役所の平均来場者数は、平成23年5月23日、25日、27日の統計より、約1360人である。そのうち930人にアンケート調査を行った。その結果を以下に示す。

市役所訪問者の年齢層 (n=930)

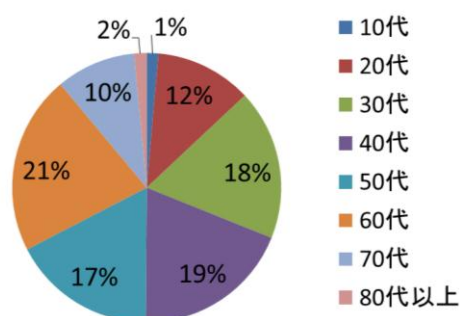


図 82 市役所訪問者の年齢層

市役所訪問時の交通手段 (n=930)

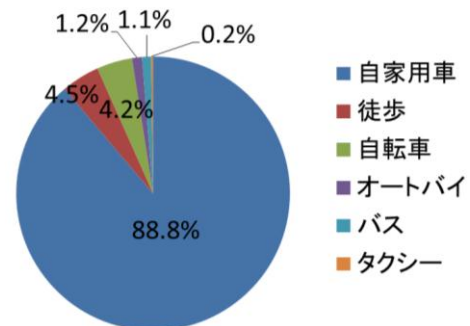


図 83 市役所訪問時の交通手段

市役所移転に伴う事業費用を算出すると、以下のようになる。

○地代

- ・地価 50,000 円/㎡
- ・敷地面積 5,620 ㎡
- ・地代 2 億 8100 万円

○新市庁舎延べ床面積

- ・21,004 ㎡×約 14 万 4000 人 / 約 21 万 4000 人 ≒14134 ㎡(5 階)
- ・つくば市役所の延べ床面積 土浦市の人口 つくば市の人口

○必要駐車場面積

- ・最大駐車台数 98 台(来庁舎数に関する調査結果より)から 150 台は必要
- ・車 1 台あたりの駐車面積 35 ㎡
- ・35 ㎡×150 台=5250 ㎡ →1F、地下駐車場

○総費用

- ・建設費用 1 ㎡あたりの建築費用 285,659 円(つくば市役所参考)
- ・新庁舎建設費 約 40 億 3700 万円
- ・駐車場建設費 1 ㎡あたり 7840 円 5250×7840 円=4,116 千万円
- ・地代 2 億 8100 万円

計 43 億 5916 万円

それに伴う高架道事業を上から見ると、図 84 のようになる。



図 84 高架道事業鳥瞰図

6-1-2. 神立駅前整備事業

神立駅前における道路混雑を緩和するため、図 85 のような政策を考える。



図 85 神立駅前の整備計画

この整備計画の効果を JICASTRADA により検証。

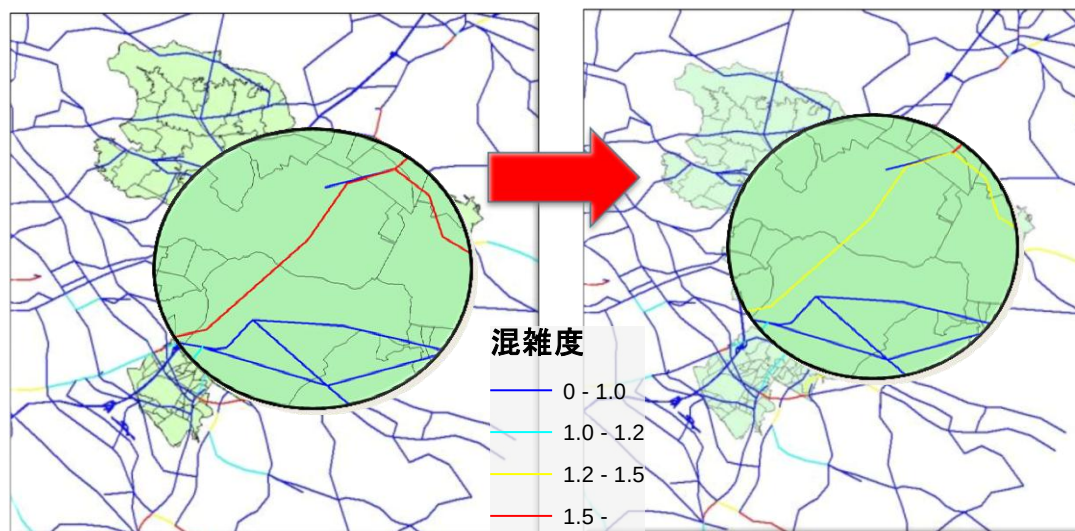


図 86 施策前

図 87 施策後

実際混雑が緩和されることが分かった。

6-1-3.無料バス先行事例

目黒区自由が丘：「サンクスネイチャーバス」

地域の企業やお店 42 人が「サポーター」となり、会員費が運営費として使われる。出資額に応じてバス停の設置が可能。

メインエリアサポーター	15 万 7500 円/月	バス停を設置
キーエリアサポーター	5 万 2500 円/月	ラックにチラシ
エリアサポーター	1 万 500 円/月	チラシや案内
個人サポーター	6000 円/月	

6-1-4.無料バス想定プランの事業費

表 17 無料バス想定プランの事業費

	荒川沖	神立	新治
総距離	19.38km	17.94km	26.11km
必要燃料(1週)	9.69	8.97	13.06
燃料費	1,424.43	1,318.59	1,919.09
燃料費(1日8本と仮定)	22,790.88	21,097.44	30,705.36
燃料費(1月)	683,726.40	632,923.20	921,160.80
燃料費(1年)	8,204,716.80	7,595,078.40	11,053,929.60
人件費(2名ずつ雇用と仮定)	600,000	600,000	600,000
バス停数	15	15	15
バス停設置費用	220,500	220,500	220,500
自動車税	29000	29000	29000
重量税	25,000	25,000	25,000
所得税(車両価格の3%)	900,000	900,000	900,000
バス維持費	954,000	954,000	954,000
バス購入費(各2台)	30,000,000	30,000,000	30,000,000
合計	39,979,217	39,369,578	42,828,430

表 18 事業費内訳

	科目	予算	備考
事業費内訳	運行委託費	21,600,000	
	車両減価償却費	18,000,000	5年で減価償却、定額法を採用
	バス停整備費	132,300	45基×14,700
	管理費	29,715,725	燃料費、バス維持費
	合計	69,448,025	

6-2.湖郷補足

6-2-1.周辺整備事業

表 19 整備事業費用

項目	算出根拠	金額(万円)
◎整備関係		
デッキ整備	7万/㎡×(2950㎡+2060㎡)	44240
LED照明整備	1000円×400個	40
◎維持管理費		
人件費	土浦市平均給与をもとに算出	120
施設維持管理費		100
総費用(現在価値)C		44500

第7章 ヒアリング協力者・参考文献

ヒアリング協力者一覧

土浦市 都市整備部 都市計画課：長坂英治様、東郷裕人様
ラクスマリーナ：秋元昭臣様
一中地区公民館：沼崎俊明様
二中地区公民館：飯塚喜倫様
三中地区公民館：細野賢司様
中川輝美様
四中地区公民館：下村浩様
上大津地区公民館：秋山太様
六中地区公民館：今野修様
都和地区公民館：田口均様
新治地区公民館：須藤弘様
土浦市 市長公室 政策企画課：平井康裕様
土浦市 産業部 商工観光課：登坂裕明様
土浦市 市民活動課：谷中様
土浦市 観光協会：菊田様
中村南四丁目 地区長：小林敏夫様
れんこん農家：飯泉浩市様、繁子様
JA 土浦 営農部 園芸振興課：山口崇一様
茨城県霞ヶ浦環境科学センター 環境活動推進課：宮本直樹様
モール 505 事務所：高野様
茨城県 生活環境部 環境対策課 水環境室 霞ヶ浦対策グループ
ふれあいセンターながみね：職員様
さん・あびお：お客様

特別協力

れんこん掘り体験協力：飯泉浩市様、繁子様
はっぴ提供：土浦市新治商工会
土浦市役所 都市計画課 東郷裕人様

参考文献

サンクスネイチャーバス : <http://www.thanksnaturebus.org/index.htm>
バス画像 : <http://jiyugaoka.keizai.biz/headline/photo/181/>
「ふるさと土浦応援寄付のご報告」
(財)社会経済生産性本部「レジャー白書 2008」
れんこん掘り画像 : <http://yokatoko.blogspot.com/2010/10/blog-post.html>
ウォークガイド画像 : <http://oniwabann.exblog.jp/9640184/>
中四鍋会 : http://www.daisuki-ibaraki.jp/saisei/zirei/pdf/20_07.pdf
町内会加入率 : http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1219235999_doc_3.pdf
『霞ヶ浦の環境と水辺の暮らしーパートナーシップ的發展論の可能性』
わがまち活性化推進事業 :
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/index.php?code=3416#tanaka1>
浄水場写真 :
http://www.city.shizuoka.jp/deps/suidosisetu/shisetsu_ssmz_yatsu.html
ほっとメール@ひたち : <http://blog.hitachi-net.jp/archives/50857185.html>
企業ランキング茨城県 :
<http://keishin.ullet.com/search/city/8203/page/2/pref/08.html#pref/08/city/8203>
土浦キララまつり 20 周年記念 霞ヶ浦湖上花火大会 :
<http://blogs.yahoo.co.jp/izumiiinn/41811923.html>
霞ヶ浦写真館 : http://pub.ne.jp/kasumigaura/?entry_id=3099677
土浦市地域公共交通総合連携計画 :
http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1274404031_doc_34.pdf
わがまち活性化推進事業 : <http://www.city.tsuchiura.lg.jp/index.php?code=3416>
国土交通省 平成 19 年度地方バス :
http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha08/09/090430_.html
霞ヶ浦とその流域の概要と水環境に関わる課題 :
<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0299pdf/ks0299005.pdf>
GoogleMap: <http://maps.google.co.jp/maps?hl=ja&ie=UTF-8&tab=wl>